

(様式第10)

滋 医 大 ク 2 - 0 - 1 号
令 和 2 年 1 0 月 6 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
国立大学法人滋賀医科大学
学長 上 本 伸 二 (印)

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成31年度・令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
氏 名	国立大学法人 滋賀医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

滋賀医科大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町	電話(077) 548-2111
-----------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☐ 有 ・ ☒ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科 ② 消化器内科 ③ 循環器内科 ④ 腎臓内科	
5 神経内科 ⑥ 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科	
9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科	
診療実績	
「脳神経内科」において、「神経内科」の診療を提供している。 「糖尿病内分泌内科」において、「内分泌内科」及び「代謝内科」の診療を提供している。 「血液内科」において、「感染症内科」の診療を提供している。 「呼吸器内科」、「耳鼻咽喉科」及び「小児科」において、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療を提供している。 「整形外科」において、「リウマチ科」の診療を提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	② 消化器外科
③ 乳腺外科	④ 心臓外科
⑤ 血管外科	⑥ 心臓血管外科
⑦ 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績 「外科」において、「乳腺外科」、「内分泌外科」及び「小児外科」の診療を提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	⑧ 産科	⑨ 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	⑬ 放射線診断科	⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☐ 有 ・ ☒ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制 「歯科口腔外科」において、「歯科」の診療を提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3 形成外科	4 腫瘍内科	5 脳神経内科
6 糖尿病内分泌内科	7 歯科口腔外科	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
43 床	床	床	床	569 床	612 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	382 人	213 人	411.6 人	看護補助者	31 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	18 人	17 人	18.9 人	理学療法士	18 人	臨床臨床検査技師	67 人
薬 剤 師	46 人	2 人	46.7 人	作業療法士	5 人	検査衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視能訓練士	7 人	その他	0 人
助 産 師	33 人	3 人	35.1 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	608 人	74 人	657.7 人	臨床工学士	17 人	医療社会事業従事者	7 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	21 人
歯科衛生士	4 人	0 人	4 人	歯科技工士	0 人	事 務 職 員	194 人
管理栄養士	13 人	2 人	13.5 人	診療放射線技師	34 人	その他の職員	27 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	53 人	眼 科 専 門 医	15 人
外 科 専 門 医	37 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精 神 科 専 門 医	7 人	放 射 線 科 専 門 医	19 人
小 児 科 専 門 医	26 人	脳神経外科専門医	9 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整 形 外 科 専 門 医	15 人
泌尿器科専門医	11 人	麻 酔 科 専 門 医	20 人
産婦人科専門医	19 人	救 急 科 専 門 医	11 人
		合 計	258 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (田中 俊宏) 任命年月日 令和2年 4月 1日

平成26年4月1日から令和2年3月31日まで、副病院長(医療安全担当)として、医療安全管理部長、医療安全管理委員会副委員長の経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	499.2 人	5.4 人	504.6 人
1 日当たり平均外来患者数	848.1 人	47.6 人	895.7 人
1 日当たり平均調剤数	834.5 剤		
必要医師数	105.0 人		
必要歯科医師数	4.0 人		
必要薬剤師数	17.0 人		
必要（准）看護師数	286.0 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	507.91 m ²	耐火構造	病床数	12 床	心電計	☒ 有 ・ ☐ 無
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無	心細動除去装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無	ペースメーカー	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積		150.88 m ²	病床数	7 床	
	[移動式の場合] 台 数		9 台	病床数	床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積		29.78 m ²			
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	123.55 m ²	耐火構造	(主な設備)	血液ガス分析装置、生化学自動分析装置、全自動免疫測定装置、自動血液凝固分析装置、自動血球分析装置、細胞解析システム、保冷库、超低温フリーザー、遠心機		
細菌検査室	95.50 m ²	耐火構造	(主な設備)	血液培養装置、抗酸菌培養装置、細菌同定感受性検査装置、細菌同定装置、微生物由来成分分析装置		
病理検査室	74.75 m ²	耐火構造	(主な設備)	自動染色装置、自動封入装置、凍結薄切装置		
病理解剖室	77.88 m ²	耐火構造	(主な設備)	写真撮影装置、TPSシステム、照明器具、滅菌装置、長靴側面・底洗浄機、病理検査用流し台テーブル		
研究室	4,704.00 m ²	耐火構造	(主な設備)	蛍光顕微鏡、インキュベーター、PCR、安全キャビネット、遠心機		
講義室	636.00 m ²	耐火構造	室数	3 室	収容定員	624 人
図書室	1,262.00 m ²	耐火構造	室数	7 室	蔵書数	17.0万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		84.9 %	逆紹介率	68.8 %
算出根拠	A：	紹介患者の数	13,313 人	
	B：	他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,138 人	
	C：	救急用自動車によって搬入された患者の数	2,885 人	
	D：	初診の患者の数	19,088 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	☐ 有 ・ ☒ 無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	☐ 有 ・ ☒ 無	1
平野 哲郎	立命館大学		法学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	☐ 有 ・ ☒ 無	1
西川 甫	滋賀県スポーツ協会		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる	☐ 有 ・ ☒ 無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事（研究・企画・国際担当）の立場で意見を述べる	☒ 有 ・ ☐ 無	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）の立場で意見を述べる	☒ 有 ・ ☐ 無	3
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
病院ホームページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0人
膵がん腹膜転移に対するS-1+パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法	0人
糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile 関連下痢症・腸炎	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	神経変性疾患の遺伝子診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などの神経変性疾患の一部は遺伝性であり、診断確定には遺伝子診断が必要である。今後核酸治療の普及を踏まえ、当科では頻度の高い神経変性疾患の遺伝子診断を行っている。診断確定後の遺伝子カウンセリング体制も整えている。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症に対するメチルコバラミン(E0302)の第III相臨床試験(医師主導治験)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経内科) ALSに対する高容量メチルコバラミンは発症早期からの投与によって進行を著明に抑制する可能性が示されたが、さらに症例数を増加させて効果の有無を検証する。			
医療技術名	進行期パーキンソン病に対するデュオドーパ経十二指腸持続投与	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 進行期パーキンソン病患者に於いて、OFF期の出現やジスキネジアが出現するが、内服治療は困難で煩雑である。デュオドーパを十二指腸への持続的経管投与を一定容量で行うことによって、著明な症状の安定化が得られる。			
医療技術名	脊髄小脳変性症に対する集中リハビリテーションプログラム	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 脊髄小脳変性症は進行性で有効な内服治療の神経難病である。当科では4週間の独自の理学療法、作業療法、言語療法を集中的に行うプロトコルを有しており、小脳失調の機能や認知機能が改善が期待される。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症の上肢に対するSEMグローブ治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 筋萎縮性側索硬化症は進行性の筋萎縮と筋力低下を呈する神経難病である。脱力をきたした筋肉に過度な負荷を与えることはかえって進行を促進することが知られており、最適リハビリテーションについては議論の分かれるところである。我々は抗重力以下の筋力である趣旨に、SEMという電気式アシストグローブを用いたリハビリテーションを行っている。即時効果の改善が期待される。			
医療技術名	アルツハイマー病に対する抗アミロイド抗体の国際第3相ランダム化試験	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経内科) アルツハイマー病に於いて疾患の原因の一つと考えられているアミロイドβの異常構造を特異的に認識する抗体(BAN2401)の有効性について、国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			

医療技術名	筋萎縮性側索硬化症に対するラブリズマブの国際第3相ランダム化試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 筋萎縮性側索硬化症の進行への関与が疑われている補体を除去する抗体の有効性と安全性について国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	がん遺伝子解析検査「NCCオンコパネル検査」	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(腫瘍内科) 本検査は、がんの遺伝子プロファイルを網羅的に解析する検査で、保険収載が決定したが、保険収載までの期間、患者のニーズに対応するために評価療養として本検査を実施した。			
医療技術名	破裂脳動脈瘤急性期におけるLVISステント、ニューロフォームアトラス、コッドマンエンタープライズVRDの使用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経外科) VISステント、ニューロフォームアトラス、コッドマンエンタープライズVRDは、外科的手術(クリッピング術など)又は塞栓コイル単独のコイル塞栓術では治療困難な未破裂動脈瘤を有する患者に、コイル塞栓術時のコイル塊の親動脈への突出、逸脱を防ぐために使用されており、破裂急性期においては適応外とされている。しかし、外科的手術(クリッピング術など)又は塞栓コイル単独のコイル塞栓術では治療困難な破裂動脈瘤が存在し、これらの疾患に対して、破裂急性期にも、ステント補助コイル塞栓術(stent assisted coil:SAC)を行うことで、患者予後の改善が期待できる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対する既設頭蓋内ステント内へのLVISステントの追加留置	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳動脈瘤において既にステントが留置されている場合、2本以上のステントを重ねて留置した際の安全性及び有効性が確立されていないため、適用対象(患者)として禁忌・禁止とされている。治療対象の動脈瘤において既にステントが留置されている場合であっても、再発・残存が認められている場合、動脈瘤以外の正常血管部ではステントは血管壁に密着していることが確認されたうえで、既設ステント真腔を確保できていれば、2本以上ステントを重ねて留置した場合も、1本留置と同等およびそれ以上の効果が期待できる。			
医療技術名	プロポフォールを使用したWadaテスト	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 片側の内頸動脈に選択的にプロポフォールを注入することにより、同側の大腦半球を一時的に抑制、対側の大腦半球のみでの言語機能や記憶に関する機能を評価し、言語優位半球の同定を行っている。			

医療技術名	頭蓋内動脈ステント(脳動脈瘤治療用Flow Diverter)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 実施方法:脳動脈瘤は破裂を来すと致命的ななくも膜下出血を来すが、特に最大径が10mmを超える大型脳動脈瘤の破裂率は高いことが知られており、またまれに近位内頸動脈でも出血し、脳動脈瘤が大きくなると破裂しなくても周囲の脳や神経への圧迫により神経症状をきたすことがあるため、しばしば治療を要する。脳動脈瘤の破裂や増大を防ぐためには、理想的には母血管を温存して脳動脈瘤を閉塞することが求められ、開頭クリッピング手術や血管内コイル塞栓術が行われている。ただし、大型動脈瘤や紡錘状動脈瘤では開頭クリッピング手術や血管内コイル塞栓術が困難なことがあり、しばしば母血管ごと閉塞せざるを得ない。近位内頸動脈瘤に対しては、頭蓋内外バイパス術の併用により根治的母血管閉塞が可能であるが、時に橈骨動脈グラフトなどの侵襲の大きい外科手術が必要となる。後頭蓋窩の脳動脈瘤に対してはさらに特殊なバイパス手術が必要となり、これら実施件数が少なく技術的難易度の高い外科的根治治療の成績は必ずしも安定していない。また母血管閉塞後に他の主幹動脈に脳動脈瘤が発生することが知られている。一方、血管内治療では、コイル塞栓術だけでは大型およびネックの広い脳動脈瘤の再開通率は高く、バルーンやステントを併用して脳動脈瘤をコイル塞栓しても、大型動脈瘤では再開通が高率に生じることが知られている。血管内治療によって母血管ごと閉塞することも部位によっては可能であるが、外科手術と同様に頭蓋内外バイパス手術が必要となる。これら現在の治療法では理想的な根治的治療が困難と考えられる脳動脈瘤を対象とする血管内治療機器としてFlow Diverter(以下FD)と総称されるステントが開発され臨床使用が始まった。FDは従来の血管内治療と異なり、動脈瘤内にカテーテルを誘導しコイルなどの塞栓物質を充填することなく、動脈瘤に流入する血行を制御することにより、動脈瘤の破裂や増大を防ぎつつ、母血管を温存するという画期的なものである。特に神経圧迫症状で発症した動脈瘤では、瘤内異物のないFD治療は圧迫症状の改善効果が高いことが報告されている。一方、治療前から治療後にかけて、有効な抗血栓療法が必須であり、機器の取り扱いにも相当の習熟を要するうえ、出血および血栓症など短期・中長期の成績や評価が定まっておらず、自然歴は従来の治療法との優劣は明らかになっていない。我が国では2012年12月からFDの1つであるPipeline(Covidien/Medtronic社)の治験が行われ、デリバリーシステムが改良されたPipeline Flexが2015年4月に薬事承認された。日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳神経血管内治療学会の三学会が、厚生労働省の実施基準策定事業に参加し、頭蓋内動脈ステント(脳動脈瘤治療用Flow Diverter)実施基準および適正使用指針第2版を2015年4月に公表され、同指針に則り、本院においてもFDを用いる脳動脈瘤治療を実施するものである。			
医療技術名	脳血管内治療におけるヒストアクリル、リピオドールの使用	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳動静脈奇形や硬膜動静脈ろうなどのシャント性疾患において、疾患内の血流低下による疾患自体からの出血リスクの軽減と主療法(摘出術や定位放射線治療など)の治療効果上昇を目的として使用している。液体塞栓物質であるため、カテーテルが挿入できない場合でも血流に乗せて、塞栓が可能となる。凝固障害などの血栓化が乏しい患者にも、効果的に用いられる。ヒストアクリルを用いた脳血管内治療における合併症として、脳塞栓症による神経障害、多臓器塞栓症、出血合併症、本剤暴露部分での組織損傷、術後感染症などが挙げられる。また使用には、ある程度の慣れが必要であるが、特にヒストアクリルの場合は、過剰塞栓やカテーテルの血管への固着が起こり得る。リピオドールは、ヒストアクリルの調整剤として保険適応されているが、動脈内投与は保険適応となっていない。リピオドールについてはショック、標的部位以外への流入による塞栓症、臓器障害、骨髄抑制、間質性肺炎、消化管出血などが起こりうる。			
医療技術名	覚醒下脳腫瘍摘出術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 言語野や運動野に発生した脳実質内腫瘍に対し、術中全身麻酔状態から一度覚醒状態にした上で、言語野のマッピング、電気生理学的モニタリング、言語や運動タスクを行いながら腫瘍の摘出をすすめ、神経機能の温存を図りつつ最大限の腫瘍摘出を行うことができる。			
医療技術名	拡大内視鏡下経鼻的頭蓋内腫瘍摘出術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術の手技を拡大し、トルコ鞍周囲腫瘍(髄膜腫、神経鞘腫、頭蓋咽頭腫、視神経腫瘍、胚細胞性腫瘍など)に対して頭蓋底外科的アプローチを行うもので、経頭蓋アプローチに比べ低侵襲に手技を行うことができる。			
医療技術名	薬物の治療効果・副作用を規定する遺伝子多型の解析と投与量設計	取扱患者数	513人
当該医療技術の概要(薬剤部) 薬物の代謝(分解)に関わる酵素の遺伝子変異することにより、薬物の効果や副作用の発現に個人差が生じることが知られている。薬剤部では、当該薬物服用患者について、遺伝子多型の測定及び、その結果に基づく投与量設計を行っている(対象:45薬物、9遺伝子多型)。本検査は院内でのコンセンサスを得ており、電子カルテ上よりオーダー可能となっている。			

医療技術名	難治性精神疾患患者に対するヨーガ療法の効果	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(精神科) 薬物療法などの通常の精神科治療によって改善が困難な精神疾患(不眠や気分障害、神経症など)に対して、ヨーガ療法という簡単なアイソメトリック運動により、「緊張と弛緩」という身体の状態を意識化することを中心とした療法を追加して行う。不安や抑うつ症状、不眠に対して良好な治療性成績を得ている。			
医療技術名	tPAを用いた血腫移動術及び血腫除去術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(眼 科) 網膜下血腫の自然予後は極めて不良であり、早急な治療が必要である。tPAは血腫を溶解させる作用を有しているが、tPAと硝子体内ガス注入の組み合わせ、あるいはtPAを用いた黄斑下手術を行うことにより、良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	血管新生緑内障に対するBevacizumab治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(眼 科) 血管新生緑内障は重篤な網膜疾患に続発して生じる非常に難治性の緑内障である。その治療には光凝固術により網膜疾患の活動性を低下させることが行われているが、重症の場合、光凝固で網膜症の病勢を止めることができず、眼圧のコントロールができず失明に至ることも少なくない。非常に難治の血管新生緑内障に対して、眼圧をコントロールし、失明回避のため抗VEGF薬(bevacizumab)を硝子体内に投与し、治療効果を期待する。			
医療技術名	重症の糖尿病網膜症の手術前処置としてのbevacizumab治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(眼 科) 重症の糖尿病網膜症に対するしょうしたいしゅじゅつは眼科手術において最も何度が高い手術の一つである。術中の出血を抑制するために、術前にbevacizumabを硝子体内注射する。本処置により、術中合併症が減少し成績が向上する。			
医療技術名	黄斑円孔網膜剥離に対する内境界膜移動と血液の併用術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(眼 科) 難治性の黄斑円孔網膜剥離に対して、内境界膜フラップを円孔内に挿入し、その受けに自己血液を塗布し、網膜の復位を得る			
医療技術名	成人急性骨髄性白血病の発症・進展および治療反応性、副作用に関する遺伝子異常の網羅的解析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 分子病態に基づく新たな予後層別化システムならびに最適な治療選択アルゴリズムを構築することを目的とし、さらに層別化システムに基づく個別化治療法を検証するための臨床試験の提案ならびに新たに同定された異常分子の機能解析により新たな分子標的療法の開発へと発展させる。			
医療技術名	造血器疾患における遺伝子異常・エピジェネティクス異常の解析	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要(血液内科) 当科に入院した血液悪性疾患症例の腫瘍細胞の遺伝子異常、エピジェネティクス異常を解析し、治療選択および予後予測、さらには新たな治療戦略法の開発へと発展される。			

医療技術名	腹腔鏡下肝切除に対する、術前血管造影下インドシアニングリーン投与による手術ナビゲーションの検討	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(消化器外 科) 腹腔鏡下肝切除の術前、血管造影下で切除予定区域の動脈にインドシアニンググリーンを投与することによって、手術ナビゲーションを行う。			
医療技術名	経頸静脈的門脈大循環短絡術(TIPS)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(放射線科 科) 経皮的にカテーテルを用いて肝臓内の門脈と肝静脈の間に短絡路を作成する治療法。短絡路を介して門脈血を大循環に流出させることにより門脈圧低下を図り、門脈圧亢進症に起因する難治性腹水や胸水、難治性食道静脈瘤などに対する治療を行う。			
医療技術名	次世代シークエンサーを用いた家族性不整脈症候群の遺伝子解析	取扱患者数	512人
当該医療技術の概要(循環器内科) 既知の候補遺伝子には変異が同定されなかった家族性不整脈症候群症例において、次世代シークエンサーを用いることにより、全エクソン領域の変異を同定し、疾患の原因遺伝子の同定を試みている。			
医療技術名	リアルタイム位相マッピング装置による心房細動の可視化診断	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要(循環器内科・医療情報総合センター) 従来、心内電位波形しか記録できず治療法が未確立であった持続性心房細動に対して、本学の芦原らが発明したオンライン・リアルタイム位相マッピング装置(平成27年8月薬機承認)で心房細動の複雑な興奮動態を瞬時に映像化し、患者毎に異なる心房細動の持続メカニズムを診断することで、新たな治療戦略の確立を目指している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	41名
当該医療技術の概要(循環器内科) 自己心拍下にカテーテルを用いて生体弁を大動脈に留置する新しい治療。従来の外科手術で必要であった開胸や人工心肺使用が不要であるため、高齢者などのハイリスク患者への有用な治療法として期待している。			
医療技術名	高周波ホットバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要(循環器内科) 発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、高周波電流で過熱されたバルーンを用いる新しい術式である。通常の電極カテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、心房壁への接触面積が広いことから、より簡便かつ迅速な肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の植込み型除細動器(ICD)(平成28年薬機承認、保険適応)で、従来型のような心臓内リードを必要としないため、リードの感染や断線、血管閉塞や癒着など、リードそのものによるトラブルを無くすることができる。そのため、感染リスクの高い患者、若年の患者などにも適応が広がった。京滋奈良地区で初となるS-ICD手術は当院当科で実施した。			

医療技術名	リードレスペースメーカ植え込み術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の超小型ペースメーカ(平成28年薬機承認, 保険適用)で、経静脈的にペースメーカ本体のみを心室内に植込むことのできるリードレスのMRI対応型ペースメーカである。リード断線やリード感染など、ペースメーカリードに関連する合併症の心配がなく、植込み後の患者負担も極めて低いことから、利用可能性が高まると期待される。			
医療技術名	ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群患者に対するリツキシマブ投与	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 種々の免疫抑制剤による治療に対し抵抗性で、難治の小児ネフローゼ症候群患者に対して、リツキシマブ投与による寛解導入を試みる。リツキシマブは小児の難治性ネフローゼ症候群(頻回再発型・ステロイド依存性)に対してはすでに保険適応を有する薬剤である。			
医療技術名	初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象とした標準治療(再発時プレドニゾロン治療)と標準治療+高用量ミゾリビン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(小児科) 初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象としたオープンランダム化並行群間比較試験によって、標準治療(再発時プレドニゾロン治療)+高用量ミゾリビン併用治療が標準治療に対して、頻回再発抑制効果に優れることを検証する。			
医療技術名	頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(小児科) 頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたオープンランダム化並行群間比較試験によって、タクロリムス治療がシクロスポリン治療に対して無再発期間において非劣性であることを検証し、タクロリムス治療とシクロスポリン治療の有害事象を比較する。			
医療技術名	小児期発症のネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の 多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化並行群間比較試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 小児期発症のネフローゼ症候群の患者(頻回再発型あるいはステロイド依存性と診断された場合)を対象として、治験薬 IDEC-C2B8を 1 週間間隔で 2 回投与した際の有効性 を検証し、安全性を評価する。			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	33
2	筋萎縮性側索硬化症	54	57	特発性拡張型心筋症	47
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症	2	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	24	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	149	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	20
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	47	66	IgA 腎症	45
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	31
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	28	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	21	69	後縦靱帯骨化症	35
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	49
17	多系統萎縮症	32	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	46	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	6
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	52
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-Ⅰ関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	14	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	25
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	28
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	14	90	網膜色素変性症	22
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	27
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	8	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	219
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	422
43	顕微鏡的多発血管炎	5	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	1	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	89	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	52	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	36	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	16	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	15	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	6	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(三相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	1	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	2

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	24	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	3
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	2
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	17

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族Lーアミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	5
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟、7対1入院基本料)	・入退院支援加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟、7対1入院基本料)	・認知症ケア加算
・救急医療管理加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算
・診療録管理体制加算1	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(40対1)	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算(25対1:看護補助者5割未満)	・特定集中治療室管理料1
・看護職員夜間12対1配置加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び 歯科治療時医療管理料	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・ウイルス疾患指導料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・喘息治療管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタ リング加算	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・糖尿病合併症管理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・網膜再建術
・がん患者指導管理料イ	・人工中耳植込術
・がん患者指導管理料ロ	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型 骨導補聴器交換術
・がん患者指導管理料ハ	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・がん患者指導管理料ニ	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・外来緩和ケア管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・糖尿病透析予防指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎 骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節 生検(単独)
・婦人科特定疾患治療管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴 わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うも の))
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看 護体制加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・外来放射線照射診療料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)
・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用 いる場合)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を 用いる場合)

・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来排尿自立指導料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胸腔鏡下弁形成術
・薬剤管理指導料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下弁置換術
・医療機器安全管理料2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・精神科退院時共同指導料1及び2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・遺伝学的検査	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・骨髄微小残存病変量測定	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・BRCA1/2遺伝子検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・先天性代謝異常症検査	・経皮的下肢動脈形成術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・胎児心エコー法	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下肝切除術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下臍腫瘍摘出術
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
・光トポグラフィー	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・神経学的検査	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ロービジョン検査判断料	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内服・点滴誘発試験	・膀胱水圧拡張術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・遠隔画像診断	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・外来化学療法加算1	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・連携充実加算	・無心体双胎焼灼術

・無菌製剤処理料	・胎児輸血術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下支援加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)
・がん患者リハビリテーション料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・リンパ浮腫複合的治療料	・輸血管理料Ⅱ
・歯科口腔リハビリテーション料2	・コーディネート体制充実加算
・児童思春期精神科専門管理加算	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・救急患者精神科継続支援料	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・認知療法・認知行動療法1	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・歯周組織再生誘導手術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・麻酔管理料(Ⅰ)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・麻酔管理料(Ⅱ)
・口腔粘膜処置	・放射線治療専任加算
・口腔粘膜血管腫凝固術	・外来放射線治療加算
・レーザー機器加算	・高エネルギー放射線治療
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・1回線量増加加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・人工腎臓	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・導入期加算1	・体外照射呼吸性移動対策加算

・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・定位放射線治療
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・CAD／CAM冠	・保険医療機関間の連携による病理診断
・センチネルリンパ節加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・病理診断管理加算2
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・デジタル病理画像による病理診断
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・椎間板内酵素注入療法	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変(MRD)量測定	・
・前眼部三次元画像解析	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査(進行再発固形がん)	・
・多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	97
剖 検 の 状 況	剖検症例数 31 例 / 剖検率 12.8 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
エネルギー代謝を標的にしたKRAS変異難治癌に対する新規抗癌剤の開発	井上 寛一	臨床腫瘍学講座	3,120,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
エネルギー代謝を標的にした転移浸潤性膀胱癌に対する新規抗癌剤の開発	金 哲将	泌尿器科学講座	2,860,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
腸内細菌叢がCOPD患者の痩せ・気腫性肺病変進行に及ぼす影響とその機序の検討	黄瀬 大輔	内科学講座(呼吸器内科)	1,864,272	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
多臓器不全における骨髄前駆細胞の役割の解明	田畑 貴久	救急集中治療医学講座	2,210,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
統合オミックス解析をもちいたGGCT発現阻害による抗腫瘍メカニズムの解明	窪田 成寿	泌尿器科	1,879,113	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
強度近視に伴う黄斑円孔網膜剥離に対する角膜乱視を軽減する強膜短縮術の開発	大路 正人	眼科学講座	2,080,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
鼻腔洗浄液中の細胞外小胞(エクソソーム、マイクロベシクル)による新規診断法の開発	清水 志乃	耳鼻咽喉科	2,077,019	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	木村 文則	産科学婦人科学講座(女性)	1,950,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
トランスジェニックマウス法による完全ヒト型生物学的製剤の薬理動態解析法の確立	安藤 朗	内科学講座(消化器内科)	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
骨肉腫分子病理診断の革新と治療	森谷 鈴子	病理部	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
ゲノミクス、プロテオミクス解析による脊柱靱帯骨化の骨化抑制療法の開発	彌山 峰史	整形外科	1,670,916	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)

計 11 件

好酸球性副鼻腔炎における好中球エラスターゼと内因性阻害因子elafinの役割	神前 英明	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
蛋白翻訳後修飾O-GlcNAc修飾の腎生理ならびに糖尿病性腎臓病における役割	金崎 雅美	血液浄化部	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
腸上皮組織におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明	卯木 智	糖尿病内分泌内科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ミトコンドリア機能調節因子としてのmiR-494-3pの役割	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
一般日本人女性におけるCOPDの有病率及び潜在性動脈硬化指標との関連に関する検討	中野 恭幸	内科学講座(呼吸器内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ケトン体代謝に着目した糖尿病性腎症の病態解明ならびに新規治療戦略の探索	久米 真司	内科学講座(腎臓内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
消化管からもグルカゴンが分泌されるか？糖尿病におけるプログルカゴン細胞の役割	藤田 征弘	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
アルコール代謝酵素の遺伝子多型と循環器疾患の生命予後に関する研究	林 秀樹	内科学講座(循環器内科)	1,324,753	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
構造方程式モデリングを用いて統合失調症末梢血の研究成果を統合し、病態解明に繋げる	尾関 祐二	精神医学講座	1,496,002	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
消化器癌リンパ節転移における細胞間接着因子Claudinの機能解析	三宅 亨	消化器外科	1,498,473	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
免疫トレランスを回避する複合的がん免疫細胞治療法の開発	目片 英治	総合外科学講座	1,449,445	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー探索	五十嵐 知之	外科(心臓血管・呼吸器)	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

急性白血病におけるスーパーエンハンサーを介した転写因子ネットワーク異常の解明	河原 真大	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ファーマコゲノミクス検査の臨床的実用化に向けた臨床データベースの活用	寺田 智祐	薬剤部	1,458,042	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
Oncofertilityの視点に基づく抗がん剤からの卵巣機能保護に関する研究	村上 節	産科学婦人科学講座(母子)	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
カニクイザル網膜静脈閉塞症モデルに対するリポソームによる薬物治療の開発	西信 良嗣	眼科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
鼻腔検体を利用したアルツハイマー病早期診断法(リキッドバイオプシー)の開発	中村 圭吾	耳鼻咽喉科	1,427,662	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
中性脂質に対する高感度ハイスループット定量法の開発と動脈硬化予防への臨床応用	森田 真也	薬剤部	1,996,050	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
アレルギー性鼻炎におけるILC2sを介した好酸球遊走調節機構の解明	戸嶋 一郎	耳鼻咽喉科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ヒト及びカニクイザル多能性幹細胞を用いた腎尿路再生の研究	小林 憲市	泌尿器科	1,211,840	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
精巣でのテストステロン産生に関与するD型アスパラギン酸合成酵素の同定	富田 圭司	泌尿器科学講座	1,913,035	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
腸管グルカゴンの機能及び糖新生器官としての腸管の役割の解明	柳町 剛司	糖尿病内分泌内科	2,380,251	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
前立腺癌のSuper-Enhancerを介した増殖の分子機構の解明と治療への応用	永澤 誠之	泌尿器科	2,837,945	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
敗血症患者における慢性期の自律神経障害と各種臓器障害の関係について	宮武 秀光	救急・集中治療部	2,805,332	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

大腸癌の腫瘍局在に着目した腸内細菌叢の網羅的解析	安川 大貴	検査部	2,340,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
未熟児網膜症モデルへの抗VEGF薬投与による、血清VEGFおよび反対眼への影響	一山 悠介	眼科	2,032,425	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
癌由来エクソソームの自然免疫系による腹膜播種抑制メカニズムの解明	徳田 彩	消化器外科	1,831,262	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
SPION-NIの悪性腫瘍低酸素領域を標的としたセラノスティクスへの応用	吉野 芙美	女性診療科	1,820,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
低酸素環境における肺がん浸潤のメカニズムの解明	片岡 瑛子	外科(心臓血管・呼吸器)	1,694,073	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
術中腹腔内散布癌細胞の癌幹細胞性と腹膜再発に関する研究	児玉 泰一	消化器外科	1,640,667	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ウサギVX2腫瘍モデルを用いたKORTUC動注併用放射線治療による抗腫瘍効果	友澤 裕樹	放射線医学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リソソーム障害に着目した慢性腎臓病における糸球体上皮細胞障害機構の解明	山原 真子	医師臨床教育センター	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
転写因子MAFBによる糸球体上皮細胞のオートファジー制御機構の解明	山原 康佑	血液浄化部	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リアルタイムリンパ管蛍光造影ナビゲーションを用いたリンパ浮腫治療と制御への応用	河合 由紀	乳腺・一般外科	1,501,580	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
膀胱拡大術に対する羊膜上皮細胞と脂肪由来幹細胞を用いた機能的膀胱の再生	堀井 常人	泌尿器科学講座	1,426,691	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
先天性QT延長症候群の遺伝子変異に基づく病態評価と治療法の確立	八木 典章	循環器内科	1,344,326	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

脾島におけるO-GlcNAc修飾の生理学的役割の解明と新規糖尿病治療標的の探索	井田 昌吾	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
HER2陽性乳癌抗体治療による細胞性免疫誘導と新規免疫治療の開発	北村 美奈	乳腺・一般外科	1,326,234	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
脳可塑性変化からみる漢方薬の鎮痛メカニズムの解明	中西 美保	麻酔科	1,144,792	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
代謝型グルタミン酸受容体を介した射精調節メカニズムの解明	時田 美和子	泌尿器科	1,214,487	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
糖尿病性腎臓病を含めた糖尿病患者の実態・リスク・長期予後の時代変遷による影響	横山 宏樹	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	1,276,753	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
炎症性腸疾患の小胞体ストレスを標的とした抗TNFによる短鎖脂肪酸受容体発現の検討	今枝 広丞	内科学講座(消化器・血液内科)	1,173,367	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
メタボリックシンドロームが非B非C型肝炎がん発生に寄与するメカニズムの探索	飯田 洋也	外科学講座(消化器外科)	1,173,129	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
スギ免疫療法におけるヒノキ花粉症非奏功例に対する新規主要抗原cha o 3の関与	菊岡 弘高	耳鼻咽喉科学講座	1,170,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
オートファジーを介した脂質負荷による炎症性腸疾患悪化メカニズム解析と新規治療開発	西田 淳史	内科学講座(消化器・血液内科)	1,302,978	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リアノジン受容体遺伝子異常による遺伝性心臓疾患の病態解明	福山 恵	内科学講座(循環器内科)	1,144,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
難治性がん性腹水・胸水治療のための新規免疫細胞療法の開発	小島 正継	外科学講座(消化器外科)	1,143,361	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
MAPKシグナルを介するケモカイン抑制による免疫療法抵抗性の解明と克服法の開発	住本 秀敏	臨床腫瘍学講座	1,133,098	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

川崎病モデルマウスを用いた心筋炎に伴う不整脈発生の機序の解明	星野 真介	小児科	1,148,984	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
吸入麻酔薬のTRPCチャネル抑制効果を基軸にした心筋保護機構の解明	北川 裕利	麻酔学講座	1,023,182	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
グリオーマ幹細胞におけるQuiescence獲得機構の解明に関する研究	深見 忠輝	脳神経外科	1,108,892	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
4次元呼吸ダイナミックCTを用いた間質性肺炎における局所呼吸運動・病態解析	永谷 幸裕	放射線医学講座	850,200	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
起泡性物質の肺手術時における空気漏れ検出への適応に関する基礎的研究	大塩 恭彦	外科学講座(呼吸器外科)	1,030,419	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
好酸球性鼻副鼻腔炎の病態における自然免疫の役割ーアラミンとIL-18について	小河 孝夫	耳鼻咽喉科	910,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
GGCT阻害分子を用いた尿路上皮癌治療の開発	影山 進	泌尿器科	1,093,974	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
一般住民女性における血糖変動と認知機能および潜在性動脈硬化の関連	宮澤 伊都子	糖尿病内分泌内科	881,912	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ブルガダ症候群のSCN5Aドミナントネガティブ変異の機序に関する研究	加藤 浩一	循環器内科	846,865	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
病態心における吸入麻酔薬の心筋保護作用の分子基盤と新規心筋保護法への発展	小嶋 亜希子	麻酔学講座	1,012,713	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
腹膜播種における癌細胞由来エクソソームの役割の解析	生田 大二	外科学講座(消化器外科)	991,280	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
分子ライブイメージングを用いた脳動脈瘤増大破裂機序の多面的解析と新規治療法の開発	野崎 和彦	脳神経外科学講座	1,041,764	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

多臓器不全におけるサイトケラチン7(CK7)陽性細胞の役割の解明	加藤 文崇	救急・集中治療部	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
子宮平滑筋細胞における細胞容積調節塩素チャネルの妊娠による影響に関する研究	山田 一貴	母子診療科	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
メタゲノミクス解析を用いた大腸癌肝転移巣における細菌叢解析と病理学的意義の解明	森 治樹	外科(消化器・乳腺・一般)	856,098	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
エネルギー代謝からみた心臓悪液質の病態解明と新たな栄養療法に関する研究	佐々木 雅也	基礎看護学講座(生化学・栄養)	735,462	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
メタゲノム解析を用いた膵線維化と腸内細菌叢の関連の探索	藤本 剛英	消化器内科	884,033	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
腸管線維化におけるIL-38の機能解析	大野 将司	消化器内科	908,314	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
シームレスな画像支援を実現するMR・蛍光デュアルイメージング法の開発	仲 成幸	外科学講座(消化器・乳腺・一般外科)	901,890	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
クローン病のエネルギー代謝と体組成に影響を与える血清バイオマーカーの探索	馬場 重樹	栄養治療部	864,779	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
炭酸ガス溶解生理食塩水を用いた血管造影用陰性造影剤の基礎研究	大田 信一	放射線科	650,172	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
潜在型TGF- β 陽性細胞除去カラムを用いた新規子宮内膜症治療法の確立	辻 俊一郎	母子診療科	650,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
脳動脈瘤モデルサル樹立による脳動脈瘤新規治療法開発基盤整備	辻 敬一	脳神経外科	1,038,979	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
吸入麻酔薬の膜電位依存性イオンチャネルの制御に関わる分子機構の解明	福島 豊	手術部	875,978	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

慢性疼痛患者のVBM、扁桃体MR Spectroscopyを用いた脳内病態評価	福井 聖	ペインクリニック科	814,180	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ダウン症候群合併骨髄性白血病の治療反応の多様性解明の研究	多賀 崇	小児科学講座	746,169	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
Dual energy supplyによる血管性認知症に対する新規治療法の開発	北村 彰浩	内科学講座(脳神経内科)	800,447	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
非活性型TGF β (LAP) 陽性免疫細胞に着目した尿路上皮癌免疫治療の新規開発	村井 亮介	泌尿器科	829,222	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ヒストン脱アセチル化酵素HDAC2, 3バランスに着目した抗うつ効果機構の解明	大久保 雅則	精神医学講座	625,482	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
胃底腺ポリープと胃底腺ポリープ様病変の臨床病理学的・分子病理学的鑑別	九嶋 亮治	病理学講座(人体病理学部門)	520,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
中鎖脂肪酸投与による腸内細菌叢と炎症性サイトカインの変化	大崎 理英	内科学講座(消化器・血液内科)	520,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
先天赤緑色覚異常における遺伝子アレーの研究	岩佐 真紀	眼科	520,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
減量外科治療における効果不良因子の検討-多施設共同調査研究	山口 剛	外科学講座(消化器外科)	481,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
栄養維持に関連した腸内細菌叢形成におけるピロリ菌感染の意義の検討	杉本 光繁	光学医療診療部	368,500	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
小児1型糖尿病患者の自立支援のための自己管理能力・生活環境・生活の質に関する調査	松井 克之	小児科	539,935	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
AIによる、教育と医療で共有可能なADHDスクリーニング及び治療適正化方法の開発	阪上 由子	小児科学講座(小児発達支援学部門)	478,352	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

傷害表皮に遊走する骨髄細胞の機能解析および皮膚難治性潰瘍に対する新規治療法の開発	岡野 純子	形成外科学講座	561,713	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
胎動カウントの地域普及と啓発がもたらす周産期死亡減少効果	越田 繁樹	総合周産期母子医療センター	316,132	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
先天性腸疾患における腸管神経系システムの解明	坂井 幸子	外科学講座(乳腺・一般外科)	510,146	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ヒト滑膜・軟骨細胞における細胞膜イオンチャネルを介した関節症疾患治療戦略の構築	熊谷 康佑	整形外科科学講座	444,235	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
周産期の鉄欠乏による神経幹細胞の発生異常と生後の行動特性との関連の解析	西倉 紀子	小児科学講座(小児発達支援学部門)	289,859	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ウェアラブルデバイスによるがん化学療法の副作用管理における客観的身体評価法の探索	富田 香	腫瘍センター	329,791	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
新生児高ビリルビン血症の脳神経の発達にお及ぼす効果についての研究	丸尾 良浩	小児科学講座	586,550	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
泌尿器癌に対する抗癌治療における疲労・倦怠感バイオマーカーの探索	沖中 勇輝	泌尿器科	638,248	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
行動量と自律神経機能同時測定デバイスによる介護支援システムの構築	角 幸頼	精神医学講座	232,390	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
血管周囲脂肪組織の新たな知見:血管外側からの動脈硬化促進機序の分子生化学的解明	鈴木 友彰	外科学講座(心臓血管外科)	522,943	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
動脈硬化初期病変の造影MR画像と病理像の対比:WHHLウサギを用いた研究	村上 陽子	放射線科	275,245	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
生体内で脂肪に置換される吸収性材料の開発	荻野 秀一	形成外科学講座	473,855	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

部分肝への遺伝子治療による脾臓再生の試み	藤野 和典	救急集中治療医学講座	193,948	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
尿蛋白クレアチニン比を用いた、新たな学校検尿システムの構築	坂井 智行	小児科	480,725	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
甲状腺眼症の眼球突出に対するBimatoprostの治療効果	東山 智明	眼科	207,824	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
クローン病狭窄病変における腸内細菌叢の網羅的解析	高橋 憲一郎	消化器内科	506,832	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
新規リン脂質定量分析法を用いた動脈硬化性冠動脈疾患の発症抑制因子の探索	辻 徳治	薬剤部	422,118	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
慢性神経障害性疼痛に対する痛み焦点化催眠と催眠認知療法の効果検証	安達 友紀	ペインクリニック科	320,800	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
統合失調症と診断されているニーマンピック病C型の調査及び非侵襲的鑑別法の検討	藤井 久彌子	精神医学講座	18,529	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
二重標識水法を用いた筋萎縮性側索硬化症患者のエネルギー代謝に関する臨床研究	栗原 美香	栄養治療部	129,480	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
子どもが育つ地域での要支援度ツールの作成:多機関連携における共通理解のために	澤井 ちひろ	小児科学講座(小児発達支援学部門)	185,020	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
リアルタイムリンパ管蛍光造影ナビゲーションを用いたリンパ浮腫治療と制御への応用	河合 由紀	乳腺・一般外科	510,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
胃酸分泌抑制下におけるC. difficile感染症発症機序の解明と予防策の構築	大塚 武人	内科学講座(消化器内科)	120,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)
サルコペニア合併高齢保存期CKD患者の食事療法の開発	武田 尚子	腎臓内科	330,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成 基金助成金)

計 12 件

生理機能に基づくレベ－小体型認知症早期診断ウェアラブルデバイスの開発	角谷 寛	睡眠行動医学講座(寄附講座)	5,260,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
難治癌の迅速病態診断リキッドバイオプシーの開発とプレジジョン医療への応用	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	7,280,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
ヒノキ花粉症の根治を目指すスギ花粉舌下免疫療法 の分子機序解明のための総合的研究	清水 猛史	耳鼻咽喉科学講座	7,150,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
ALSに対する一本鎖治療抗体分泌型オリゴデンドロサイト前駆細胞移植治療法の開発	漆谷 真	内科学講座(脳神経内科)	5,850,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
脊髄損傷後の新規再生治療法の開発:大脳損傷メカニズムの解明と骨髄細胞を用いた修復	鈴木 義久	形成外科学講座	2,210,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
糖代謝臓器における細胞内糖鎖修飾の網羅的機能解析－生理機能から糖尿病の病態まで	前川 聡	内科学講座(糖尿病内内分泌内科)	4,290,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
癌焼灼療法用発熱材としてのバイオメタルの評価・極小化と焼灼療法器具への応用	新田 哲久	放射線医学講座	1,118,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
統合失調症と診断されているニーマンピック病C型の調査及び非侵襲的鑑別法の検討	尾関 祐二	精神医学講座	390,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
多機能メタロプロテアーゼによる核内受容体REV-ERB活性制御機構の解明	西 英一郎	薬理学講座	260,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
WPW症候群における副伝導路位置推定と治療戦略に関するシミュレーション研究	芦原 貴司	情報総合センター	260,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
フライトナースにおける看護活動実践能力に関する研究	坂口 桃子	麻酔学講座	169,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
重喫煙者の低線量CT画像による肺気腫の長期にわたる進展評価と関与する遺伝子の同定	中野 恭幸	内科学講座(呼吸器内科)	130,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

計 12 件

食道癌および胃癌の腸内細菌叢から解析した患者免疫能における探索的基礎研究	谷 眞至	外科学講座(消化器外科)	130,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
Stickler症候群の網膜剥離の治療に向けた臨床・遺伝子研究	大路 正人	眼科学講座	130,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
間葉系幹細胞へのストレスによる骨関節疾患発症メカニズムの解明	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	91,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
職域での快眠音を用いた睡眠支援システムの開発と効果検証	角谷 寛	睡眠行動医学講座(寄附講座)	65,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
難治性不整脈の病態解明・診断・治療における位相分散解析に基づく戦略的制御技術開発	芦原 貴司	情報総合センター	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
連続体バイオメカニクスによる全脳循環代謝動態の解明と脳血管障害の病態解析	渡邊 嘉之	放射線医学講座	703,860	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
含ホウ素ナノ粒子による薬物送達と中性子捕捉療法を組み合わせたがん治療法の開発	天野 創	女性診療科	442,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	松尾 雅博	精神科	390,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	阪上 由子	小児科学講座(小児発達支援学部門)	260,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
慢性痛に対する認知行動療法の無作為化比較試験による効果検証とその普及に関する研究	安達 友紀	ペインクリニック科	76,700	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
地域循環器疾患登録を用いた脳卒中発症者の機能予後に関する研究	野崎 和彦	脳神経外科学講座	65,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
難治性疾患等を対象とする持続可能で効率的な医療の提供を実現するための医療経済評価の手法に関する研究	福井 聖	ペインクリニック科	700,000	補委	厚生労働科学研究費補助金

計 12 件

慢性の痛み患者への就労支援／仕事と治療の両立支援および労働生産性向上に寄与するマニュアルの開発と普及・啓発	福井 聖	ペインクリニック科	600,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	福井 聖	ペインクリニック科	500,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
スモンに関する調査研究	山川 勇	内科学講座(脳神経内科)	500,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	安藤 朗	内科学講座(消化器内科)	500,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
思春期・若年成人(AYA)世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究	河合 由紀	乳腺・一般外科	400,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	多賀 崇	小児科学講座	400,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
医薬用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	福井 聖	ペインクリニック科	350,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
医薬用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	岩下 成人	ペインクリニック科	350,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科科学講座	250,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	福井 聖	ペインクリニック科	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
小児・AYA世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化に向けた臨床研究	木村 文則	産科学婦人科学講座(女性)	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	丸尾 良浩	小児科学講座	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金

計 12 件

総計 155 件

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kohei Hachiro, Takeshi Kinoshita, Tohru Asai, et al.	心臓血管外科	Left ventricular mass regression in patients without patient-prosthesis mismatch after aortic valve replacement for aortic stenosis	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Mar;68(3):227-232.	Original Article
2	Tomoaki Suzuki, Tohru Asai, Takeshi Kinoshita	心臓血管外科	Emergency Surgery for Acute Type A Aortic Dissection in Octogenarians Without Patient Selection	Ann Thorac Surg. 2019 Apr;107(4):1146-1153.	Others
3	Reo Sakakura, Tohru Asai, Tomoaki Suzuki, et al	心臓血管外科	Outcomes after aortic valve replacement for aortic valve stenosis, with or without concomitant coronary artery bypass grafting	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2019 Jun;67(6):510-517	Original Article
4	Tohru Asai	心臓血管外科	Commentary: Axillary artery cannulation was used safely for the stable majority of patients	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2019 Sep;158(3):664	Others
5	Tohru Asai, Fumihiro Miyashita, Hiromitsu Nota, et al	心臓血管外科	Tricuspid valve relocation with endomyocardial fibrosis removal for Lö effler's endocarditis	European Journal of Cardio- thoracic Surgery. 2019 Sep;56(3):622-624	Original Article
6	Shuhei Kobashi, Tomoya Terashima, Miwako Katagi, et al.	脳神経内科	Transplantation of M2- Deviated Microglia Promotes Recovery of Motor Function after Spinal Cord Injury in Mice	Mol Ther. 2020 Jan 8;28(1):254-265	Original Article
7	Makoto Urushitani	脳神経内科	[Current Therapies for Amyotrophic Lateral Sclerosis in Japan]	Brain Nerve. 2020 Jan;72(1):13-22	Review

計 7 件

8	Koji Teramoto, Tomoyuki Igarashi, Yoko Kataoka, et al.	腫瘍内科	Clinical significance of PD-L1-positive cancer-associated fibroblasts in pNOMO non-small cell lung cancer	Lung Cancer. 2019 Nov;137:56-63	Original Article
9	Hidetoshi Sumimoto, Atsushi Takano, Koji Teramoto, et al.	腫瘍内科	Detection of neoantigen-reactive T cell clones based on the clonal expansion using next-generation sequencing of T cell receptor β complementarity-determining region 3	J Immunol Methods. 2020 Jan;476:112679	Original Article
10	Haruka Miyata, Hirohiko Imai, Hirokazu Koseki, et al.	脳神経外科	Vasa vasorum formation is associated with rupture of intracranial aneurysms	Neurosurg. 2019 Aug 16;1-11	Original Article
11	Satoshi Shitara, Akira Fujiyoshi, Takashi Hisamatsu, et al.	脳神経外科	Intracranial Artery Stenosis and Its Association With Conventional Risk Factors in a General Population of Japanese Men	Stroke. 2019 Oct;50(10):2967-2969	Original Article
12	Naoki Nitta, Naotaka Usui, Akihiko Kondo, et al.	脳神経外科	Semiology of hyperkinetic seizures of frontal versus temporal lobe origin	Epileptic Disord. 2019 Apr 1;21(2):154-165	Original Article
13	Atsushi Tsuji, Hitoshi Kayatani, Keiichi Tsuji, et al.	脳神経外科	A Case of Ruptured Vertebral Artery Dissection Involving the Origin of the Posterior Inferior Cerebellar Artery Was Conserved by Placing a Stent via the Contralateral Vertebral Artery	Journal of Neuroendovascular Therapy 2019 Nov;13: 474-479	Case Report
14	Shigeki Yamada, Masatsune Ishikawa, Makoto Yamaguchi, et al.	脳神経外科	Longitudinal morphological changes during recovery from brain deformation due to idiopathic normal pressure hydrocephalus after ventriculoperitoneal shunt surgery	Scientific Reports. 2019 Nov;9(1)	Original Article
15	Kenichi Kobayashi, Tomoyuki Tsukiyama, Masataka Nakaya, et al.	泌尿器科	Generation of an OCT3/4 reporter cynomolgus monkey ES cell line using CRISPR/Cas9	Stem Cell Res. 2019 May;37:101439	Original Article

16	Eiki Hanada, Susumu Kageyama, Ryosuke Murai, et al.	泌尿器科	Pro-GA, a Novel Inhibitor of γ - Glutamylcyclotransferase, Suppresses Human Bladder Cancer Cell Growth	Anticancer Res. 2019 Apr;39(4):1893-1898	Others
17	Tetsuya Yoshida, Yuki Okinaka, Keiji Tomita, et al.	泌尿器科	Off-clamp tumor excision using soft coagulation in laparoscopic and robotic partial nephrectomy	Asian J Endosc Surg. 2020 Jan 6.	Original Article
18	Kawauchi A., Johnin K., Kobayashi K. et al.	泌尿器科	Laparoendoscopic single- site pyeloplasty for children	Endourology Progress: Technique, Technology and training. 2019 Apr;:193-197	Original Article
19	Keisei Okamoto, Kahori Okuyama, Naoaki Kohno, et al	泌尿器科	Clinical outcomes of low- dose-rate brachytherapy based radiotherapy for intermediate risk prostate cancer	J Contemp Brachytherapy. 2020 Feb;12(1):6-11	Original Article
20	Ichiro Tojima, Koji Matsumoto, Hirotaka Kikuoka, et al.	耳鼻咽喉科	Evidence for the induction of Th2 inflammation by group 2 innate lymphoid cells in response to prostaglandin D 2 and cysteinyl leukotrienes in allergic rhinitis	Allergy. 2019 Dec;74(12):2417-2426	Original Article
21	Masahiko Arikata, Yasushi Itoh, Shintaro Shichinohe, et al.	耳鼻咽喉科	Efficacy of clarithromycin against H5N1 and H7N9 avian influenza a virus infection in cynomolgus monkeys	Antiviral Res. 2019 Nov;171:104591	Original Article
22	Hirotaka Kikuoka, Hideaki Kouzaki, Koji Matsumoto, et al	耳鼻咽喉科	Immunological effects of sublingual immunotherapy with Japanese cedar pollen extract in patients with combined Japanese cedar and Japanese cypress pollinosis	Clinical Immunology. 2020 Jan; 210	Original Article
23	Koji Matsumoto, Hideaki Kouzaki, Sayuri Yamamoto, et al	耳鼻咽喉科	In vitro and in vivo inhibitory effects of TLR4 agonist, glucopyranosyl lipid A (GLA), on allergic rhinitis caused by Japanese cedar pollen	Allergy: European Journal of Allergy and Clinical Immunology. 2020 Feb; 75(2): 446-449	Original Article

計 8 件

24	Tokuji Tsuji, Shin-Ya Morita, Yoshito Ikeda, et al	薬剤部	Enzymatic fluorometric assays for quantifying all major phospholipid classes in cells and intracellular organelles	Sci Rep. 2019 Jun 13;9(1):8607	Original Article
25	Yoshito Ikeda, Shin-Ya Morita, Ryo Hatano, et al.	薬剤部	Enhancing effect of taurohyodeoxycholate on ABCB4-mediated phospholipid efflux	Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids. 2019 Oct;1864(10):1495–1502.	Original Article
26	Satoshi Dote, Kaori Ito, Shoji Itakura, et al.	薬剤部	Impact of prior bortezomib therapy on the incidence of lenalidomide-induced skin rash in multiple myeloma: a propensity score-matched multi- institutional cohort study	Leuk Lymphoma. 2019 Dec;60(12):2975–2981.	Original Article
27	Yoshinori Wakasugi, Satoshi Noda, Yoshihiro Ikuno, et al.	薬剤部	Granisetron plus aprepitant versus granisetron in preventing nausea and vomiting during CHOP or R-CHOP regimen in malignant lymphoma: a retrospective study	J Pharm Health Care Sci. 2019 Nov 21;5:24.	Original Article
28	Shin-Ya Morita, Tokuji Tsuji, Tomohiro Terada, et al	薬剤部	Protocols for Enzymatic Fluorometric Assays to Quantify Phospholipid Classes	Int J Mol Sci. 2020 Feb 4;21(3):1032.	Review
29	Satoshi Noda, Shin-ya Morita, Tomohiro Terada	薬剤部	Personalized pharmacotherapy with sunitinib and pazopanib for Asian patients	J. Asian Assoc. Sch. Pharm. 9; 1–9, 2020 Jan	Review
30	Shin-Ya Morita, Yoshito Ikeda, Tokuji Tsuji, et al	薬剤部	Molecular mechanisms for protection of hepatocytes against bile salt cytotoxicity	Chemical and Pharmaceutical Bulletin. 2019 Apr;67(4):333– 340	Original Article
31	Satoshi Noda, Tetsuya Yoshida, Daiki Hira, et al	薬剤部	Exploratory Investigation of Target Pazopanib Concentration Range for Patients With Renal Cell Carcinoma	Clinical Genitourinary Cancer. 2019 Apr;17(2):e306– e313	Original Article

32	Masaki Sumi, Takashi Hisamatsu, Akira Fujiyoshi, et al	薬剤部	Association of alcohol consumption with fat deposition in a community-based sample of Japanese men: The Shiga epidemiological study of subclinical atherosclerosis (SESSA)	Journal of Epidemiology. 2019 Jun;29(6):205-212	Original Article
33	Daiki Hira, Tomoyuki Okuda, Ayano Mizutani, et al	薬剤部	Is "Slow Inhalation" Always Suitable for Pressurized Metered Dose Inhaler?	AAPS PharmSciTech. 2020 Jan; 21(2)	Original Article
34	Masahiro Matsuo, Fumi Masuda, Yukiyoshi Sumi, et al.	精神科	Background Music Dependent Reduction of Aversive Perception and Its Relation to P3 Amplitude Reduction and Increased Heart Rate	Front Hum Neurosci. 2019 Jun 27;13:184	Original Article
35	Fumi Masuda, Shinichiro Nakajima, Takahiro Miyazaki, et al	精神科	Clinical effectiveness of repetitive transcranial magnetic stimulation treatment in children and adolescents with neurodevelopmental disorders: A systematic review	Autism. 2019 Oct;23(7):1614- 1629	Original Article
36	Takuya Yoshiike, Motoyasu Honma, Hiroki Ikeda, et al	精神科	Bright light exposure advances consolidation of motor skill accuracy in humans	Neurobiology of Learning and Memory. 2019 Dec;166	Original Article
37	Masashi Kakinoki, Takashi Araki, Masanori Iwasaki, et al.	眼科	Surgical Outcomes of Vitreotomy for Macular Hole Retinal Detachment in Highly Myopic Eyes: A Multicenter Study	Ophthalmol Retina. 2019 Oct;3(10):874-878	Original Article
38	Shumpei Obata, Tomoaki Higashiyama, Taku Imamura, et al.	眼科	Short-Term Changes in Intraocular Pressure After Intravitreal Injection of Bevacizumab for the Treatment of Retinopathy of Prematurity	Clin Ophthalmol 2019 Dec 10;13:2445-2449.	Original Article
39	Shumpei Obata, Yusuke Ichiyama, Masashi Kakinoki, et al.	眼科	Comparison of Surgical Outcomes Between Two Types of Lamellar Macular Holes	Clin Ophthalmol. 2019 Dec 19;13:2541-2546.	Original Article

計 8 件

40	Masahito Ohji, Kanji Takahashi, Annabelle A Okada, et al.	眼科	Efficacy and Safety of Intravitreal Aflibercept Treat-and-Extend Regimens in Exudative Age-Related Macular Degeneration: 52- and 96- Week Findings from ALTAIR : A Randomized Controlled Trial	Adv Ther. 2020 Mar;37(3):1173-1187.	Original Article
41	Yusuke Ichiyama, Tomoko Sawada, Osamu Sawada, et al.	眼科	THE CORRELATION BETWEEN AQUEOUS VASCULAR ENDOTHELIAL GROWTH FACTOR LEVEL AND CLINICAL ACTIVITY IN NEOVASCULAR AGE- RELATED MACULAR DEGENERATION	Retina. 2020 Mar 3.	Original Article
42	Osamu Sawada, Takamasa Mori,Yusuke Ichiyama, et al.	眼科	An Attachment Including a +20-D Lens to Gain Extended Field Images in Wide-Angle Optical Coherence Tomography Angiography	Journal of VitreoRetinal Diseases. First published Nov 8 2019.	Original Article
43	Goichi Tatsumi, Masahiro Kawahara, Ryusuke Yamamoto, et al.	血液内科	LSD1-mediated repression of GF11 super-enhancer plays an essential role in erythroleukemia.	Leukemia. 2020 Mar;34(3):746-758.	Original Article
44	Goichi Tatsumi, Masahiro Kawahara, Takayuki Imai, et al.	血液内科	Thiopurine-mediated impairment of hematopoietic stem and leukemia cells in Nudt15 R138C knock-in mice	Leukemia. 2020 Mar;34(3):882-894.	Original Article
45	Akira Andoh, Ryo Inoue, Yuki Kawada, et al.	血液内科	Elemental diet induces alterations of the gut microbial community in mice	J Clin Biochem Nutr. 2019 Sep;65(2):118-124.	Original Article
46	Motoharu Chatani, Megumi Kishita, Osamu Inatomi, et al.	血液内科	Severe Colitis with Portal Venous Gas Caused by Brachyspira pilosicoli Infection	Intern Med. 2019(Dec);58(23):3409-3413	Case Report
47	Takuma Hayami, Takeshi Kato, Suzuko Moritani, et al.	皮膚科	Systemic lupus erythematosus with abdominal lymphadenopathy	Eur J Dermatol. 2019 Jun 1;29(3):342-344.	Case Report

計 8 件

48	Hiraku Kokubu, Toshifumi Takahashi, Chiharu Tateishi, et al.	皮膚科	Serological investigation of bullous scabies and review of the published work	J Dermatol. 2019 Sep;46(9):e324–e325.	Review
49	Miho Kabuto, Toshihiro Tanaka, Noriki Fujimoto, et al	皮膚科	Successful surgical treatment for squamous cell carcinoma on the finger of a hemodialysis patient using narrow tourniquet application	Dermatologica Sinica 2019(Dec),37(4):239–240.	Case Report
50	Takuya Hayami, Toshifumi Tanaka, Noriki Fujimoto	皮膚科	Successful short desensitization for the eruption of hydroxychloroquine	Lupus. 2019 Jun;28(7):918– 919.	Case Report
51	Hiraku Kokubu, Hiroaki Ida, Toshihiro Tanaka, et al.	皮膚科	Systemic Lupus Erythematosus with Familial Mediterranean Fever: Case Report and Review of Literature	Acta Derm Venereol. 2019 Jul 1;99(9):822–823.	Review
52	Kazuya Teramura, Takeshi Kato, Junko Nishikawa, et al.	皮膚科	Oral lichen planus and lichen planopilaris complicated with thymoma	J Dermatol. 2019 Jul;46(7):e237–e239.	Case Report
53	Hiroya Iida, Hiromitsu Maehira, Haruki Mori, et al	消化器外科	Serum procalcitonin as a predictor of infectious complications after pancreaticoduodenectomy: review of the literature and our experience	Surg Today. 2020 Feb;50(2):87–96.	Review
54	Hiroya Iida, Masaji Tani, Hiromitsu Maehira, et al	消化器外科	Postoperative Pancreatic Swelling Predicts Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy	Am Surg. 2019 Apr 1;85(4):321–326.	Original Article
55	Hiroya Iida, Shigeyuki Naka, Masaji Tani, et al	消化器外科	Feasibility of a new microwave energy-based scissors device for hepatectomy	Asian J Surg. 2019 Aug;42(8):849–851.	Original Article

計 8 件

56	Hiroya Iida, Rie Osaki, Takehide Fujimoto, et al.	消化器外科	Interval between hepatocellular carcinoma treatment and interferon-free direct-acting antiviral agents against hepatitis C is necessary to suppress tumor recurrence	Mol Clin Oncol. 2019 Jul;11(1):99-105.	Original Article
57	Hiroya Iida, Hiromitsu Maehira, Haruki Mori, et al	消化器外科	Efficiency of a radiofrequency sealer (Aquamantys) for parenchymal transection during laparoscopic hepatectomy	Asian J Endosc Surg. 2020 Jan 29.	Original Article
58	Hiroya Iida, Masaya Sasaki, Hiromitsu Maehira, et al	消化器外科	The effect of preoperative synbiotic treatment to prevent surgical-site infection in hepatic resection	J Clin Biochem Nutr. 2020 Jan;66(1):67-73.	Original Article
59	Hiroya Iida, Hiromitsu Maehira, Haruki Mori, et al	消化器外科	Post-hepatectomy tolvaptan-induced hypernatremia in a hepatocellular carcinoma patient with cirrhosis: a case report	Surg Case Rep. 2020 Mar 30;6(1):61.	Case Report
60	Hiromitsu Maehira, Toru Miyake, Hiroya Iida, et al	消化器外科	Vimentin Expression in Tumor Microenvironment Predicts Survival in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: Heterogeneity in Fibroblast Population	Ann Surg Oncol. 2019 Dec;26(13):4791-4804.	Original Article
61	Haruki Mori, Toru Miyake, Tomoharu Shimizu, et al	消化器外科	A case of spontaneous colonic perforation in collagenous colitis	Surg Case Rep. 2019 May 31;5(1):90	Case Report
62	Hiroyuki Ohta, Toru Miyake, Tomoharu Shimizu, et al	消化器外科	The impact of pharmacological thromboprophylaxis and disease-stage on postoperative bleeding following colorectal cancer surgery	World J Surg Oncol. 2019 Jun 27;17(1):110.	Original Article
63	Tohru Tani, Tomoharu Shimizu, Masaji Tani, et al	消化器外科	Anti-endotoxin Properties of Polymyxin B-immobilized Fibers	Adv Exp Med Biol. 2019;1145:321-341.(Published online 2019 Jul 31)	Review

64	Yumiko Matsuo, Emiko Ogawa, Ruriko Seto–Yukimura, et al	呼吸器内科	Novel Respiratory Impedance–Based Phenotypes Reflect Different Pathophysiologies in Chronic Obstructive Pulmonary Disease Patients	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2019 Dec 20;14:2971–2977.	Original Article
65	Akio Yamazaki, Akihiro Ito, Tadashi Ishida, et al	呼吸器内科	Polymicrobial etiology as a prognostic factor for empyema in addition to the renal, age, purulence, infection source, and dietary factors score	Respiratory Investigation. 2019 Nov;57(6):574–581	Original Article
66	Naoko Itoi, Tomoko Umeda, Mitsuaki Ishida, et al	乳腺一般外科	Infiltration of CD4, CD8, CD56, and Fox–P3–positive lymphocytes in breast carcinoma tissue after neoadjuvant chemotherapy with or without trastuzumab	Breast Dis. 2019;38(2):57–65.(published 2019 Jun)	Original Article
67	Hideka Inoue, Katsutaro Morino, Satoshi Ugi, et al	糖尿病内分泌内科	Ipragliflozin, a sodium–glucose cotransporter 2 inhibitor, reduces bodyweight and fat mass, but not muscle mass, in Japanese type 2 diabetes patients treated with insulin: A randomized clinical trial	J Diabetes Investig. 2019 Jul;10(4):1012–1021.	Others
68	Satoshi Ugi, Katsutaro Morino, Tsuyoshi Yamaguchi, et al	糖尿病内分泌内科	Preserving β –cell function is the major determinant of diabetes remission following laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese obese diabetic patients	Endocr J. 2019 Sep 28;66(9):817–826.	Original Article
69	Hiroshi Maegawa, Kazuyuki Tobe, Ichiro Nakamura, et al	糖尿病内分泌内科	Safety and effectiveness of ipragliflozin in elderly versus non–elderly Japanese type 2 diabetes mellitus patients: 12 month interim results of the STELLA–LONG TERM study	Curr Med Res Opin. 2019 Nov;35(11):1901–1910.	Others
70	Takuya Okamoto, Katsutaro Morino, Satoshi Ugi, et al	糖尿病内分泌内科	Microbiome potentiates endurance exercise through intestinal acetate production	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2019 May 1;316(5):E956–E966.	Original Article
71	Keiko Fuse, Aya Kadota, Keiko Kondo, et al	糖尿病内分泌内科	Liver fat accumulation assessed by computed tomography is an independent risk factor for diabetes mellitus in a population–based study: SESSA (Shiga Epidemiological Study of Subclinical Atherosclerosis)	Diabetes Res Clin Pract. 2020 Feb;160:108002.	Original Article

72	Daisuke Sato, Katsutaro Morino, Seiichiro Ogaku, et al	糖尿病内分泌内科	Efficacy of metformin on postprandial plasma triglyceride concentration by administration timing in patients with type 2 diabetes mellitus: A randomized cross-over pilot study	Journal of Diabetes Investigation. 2019 Sep;10(5):1284-1290	Original Article
73	Itsuko Miyazawa, Katsuyuki Miura, Naoko Miyagawa, et al	糖尿病内分泌内科	Relationship between carbohydrate and dietary fibre intake and the risk of cardiovascular disease mortality in Japanese: 24-year follow-up of NIPPON DATA80	European Journal of Clinical Nutrition. 2020 Jan; 74(1): 67-76	Original Article
74	Shinji Kume, Shin-Ichi Araki, Satoshi Ugi, et al	腎臓内科	Secular changes in clinical manifestations of kidney disease among Japanese adults with type 2 diabetes from 1996 to 2014	J Diabetes Investig. 2019 Jul;10(4):1032-1040.	Original Article
75	Sho Sugahara, Shinji Kume, Masami Chin- Kanasaki, et al	腎臓内科	Protein O-GlcNAcylation Is Essential for the Maintenance of Renal Energy Homeostasis and Function via Lipolysis during Fasting and Diabetes	J Am Soc Nephrol. 2019 Jun;30(6):962-978	Original Article
76	Shin-Ichi Araki	腎臓内科	Combined effect of sodium-glucose cotransporter 2 and dipeptidyl peptidase-4 inhibitors for diabetic kidney disease	J Diabetes Investig. 2020 Jan;11(1):22-24.	Original Article
77	Shinji Kume	腎臓内科	Pathophysiological roles of nutrient-sensing mechanisms in diabetes and its complications	Diabetol Int. 2019 Aug 13;10(4):245-249.	Original Article
78	Yoko Kataoka, Tomoyuki Igarashi, Yasuhiko Ohshio, et al	呼吸器外科	Predictive importance of galectin-3 for recurrence of non-small cell lung cancer	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Aug;67(8):704-711.	Original Article
79	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Yasuhiko Ohshio, et al	呼吸器外科	Sarcopenia predicts poor postoperative outcome in elderly patients with lung cancer	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Nov;67(11):949-954.	Original Article

80	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka	呼吸器外科	How to predict the risk of post-lobeotomy complications in elderly lung cancer patients	J Thorac Dis. 2019 May;11(Suppl 9):S1432–S1433	Others
81	Kazuki Hayashi, Makoto Motoishi, Satoru Sawai, et al	呼吸器外科	Postoperative delirium after lung resection for primary lung cancer: Risk factors, risk scoring system, and prognosis.	PLoS One. 2019 Nov 18;14(11):e0223917.	Original Article
82	Keigo Okamoto, Keiko Ueda, Masutarou Ichinose	呼吸器外科	Cardiac injury due to the rapid progress of the dislocation of rib fractures: A rare case that required urgent open reduction and internal rib fixation	Respiratory Medicine Case Reports. 2019 Apr;27	Case report
83	Kazuki Hayashi, Yasuhiko Ohshio, Jun Hanaoka	呼吸器外科	Gangrenous ischaemic colitis following lung wedge resection	BMJ Case Reports. 2019 May;12(5)	Case report
84	Jun Hanaoka, Masatugu Ohuchi, Ryosuke Kaku, et al	呼吸器外科	Bronchoscopic balloon dilatation combined with laser cauterization of high and long segmental tracheal stenosis secondary to endobronchial tuberculosis: A case report	Respiratory Medicine Case Reports. 2019 Jul;28	Case report
85	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Hideki Hayashi, et al	呼吸器外科	Clinical efficacy of osimertinib for a patient with ileus due to peritoneal carcinomatosis	Clin Case Rep. 2020 Jan 3;8(2):347–350.	Case report
86	Akitoshi Inoue, Shinichi Ota, Yugo Imai, et al	放射線科	Vertebral Compression Fracture as the Complication of Embolization by Direct Puncture with Transpedicular Approach in a Patient with Type II Endoleak After Endovascular Aortic Repair	Cardiovasc Intervent Radiol. 2019 Apr;42(4):629–631.	Case Reports
87	Akitoshi Inoue, Shinichi Ota, Shigetaka Sato, et al	放射線科	Comparison of characteristic computed tomographic findings of gastrointestinal and non-gastrointestinal stromal tumors in the small intestine	Abdom Radiol (NY). 2019 Apr;44(4):1237–1245.	Others

計 8 件

88	Akitoshi Inoue, Shinichi Ota, Kai Takaki, et al.	放射線科	Change in hepatic hemodynamics assessed by hepatic arterial blood pressure and computed tomography during hepatic angiography with the double balloon technique	Jpn J Radiol. 2019 Jun;37(6):487–493.	Original Article
89	Akitoshi Inoue, Akira Furukawa, Norihisa Nitta, et al.	放射線科	Accuracy, criteria, and clinical significance of visual assessment on diffusion-weighted imaging and apparent diffusion coefficient quantification for diagnosing acute appendicitis	Abdom Radiol (NY). 2019 Oct;44(10):3235–3245.	Original Article
90	Akitoshi Inoue, Hiroo Mizuta, Akihiko Ito, et al.	放射線科	Mesenteroaxial Gastric Volvulus Diagnosed with MR Imaging during the Early Stages of Pregnancy	Magn Reson Med Sci. 2019 Oct 15;18(4):243–244.	Original Article
91	Akitoshi Inoue, Shinichi Ohta, Yugo Imai, et al.	放射線科	Naturally shrunk visceral artery aneurysms by stenting for the superior mesenteric artery occlusion	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2020 Feb 26;1–5. doi:	Original Article
92	Yukihiro Nagatani, Makoto Yoshigoe, Shinsuke Tsukagoshi, et al.	放射線科	Peripheral bronchial luminal conspicuity on dynamic-ventilation computed tomography: association with radiation doses and temporal resolution by using an ex vivo porcine lung phantom	Acta Radiol. 2020 Mar 25;284185120911186.	Original Article
93	Akitoshi Inoue, Erina Yoshida, Akinori Otsuki, et al.	放射線科	A Case of Appendiceal Mucocoele due to Low-grade Appendiceal Mucinous Neoplasm Correctly Differentiated from Acute Appendicitis Based on Diffusion-weighted Imaging and the Apparent Diffusion Coefficient Value	日本磁気共鳴医学会雑誌 40(1); 14–19, 2020 Feb	Case Report
94	Tomohiro Mimura, Kanji Mori, Noriaki Okumura, et al.	整形外科	Is the ischiofemoral space value of Japanese hip joints equal to that of Western populations?	J Hip Preserv Surg. 2019 Oct 30;6(4):390–397.	Original Article
95	Tomohiro Mimura, Kanji Mori, Noriaki Okumura, et al.	整形外科	β -Angles of hips with femoroacetabular impingement versus asymptomatic normal hips in a Japanese population: A CT-based observational clinical study	J Orthop Sci. 2020 Mar;25(2):261–266.	Original Article

96	Hiroshi Takamura, Tomoya Terashima, Kanji Mori, et al	整形外科	Bone-Marrow-Derived Mononuclear Cells Relieve Neuropathic Pain after Spinal Nerve Injury in Mice	Mol Ther Methods Clin Dev. 2020 Mar 30;17:657-665.	Original Article
97	Noriaki Okumura, Taku Kawasaki, Mitsuhiro Kubo, et al	整形外科	Effects of malalignment and disease activity on osteophyte formation in knees of rheumatoid arthritis patients	Journal of Orthopaedic Surgery. 2020 Jan-Apr; 28(1)	Original Article
98	Kanji Mori, Toshitaka Yoshii, Takashi Hirai, et al	整形外科	The characteristics of the patients with radiologically severe cervical ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine: A CT-based multicenter cross-sectional study	Journal of Orthopaedic Science. 2019 Oct	Original Article
99	Masatomo Ebina, Kazunori Fujino, Akira Inoue, et al	救急・集中治療部	Effects of Serum Albumin Levels on Antithrombin Supplementation Outcomes Among Patients With Sepsis-Associated Coagulopathy: A Retrospective Study	Clin Med Insights Blood Disord. 2019 Jun 21;12:1179545X19858361.	Original Article
100	Tomoki Tanaka, Takahisa Tabata, Kazunori Fujino, et al	救急・集中治療部	"Impact of timing of polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion on outcome in patients with septic shock: a single-center observational study"	Acute Med Surg. 2019 Jul 24;7(1):e446.	Original Article
101	Eisuke Hashimoto, Akiko Kojima, Hirotoshi Kitagawa, et al	麻酔科	Anesthetic Management of a Patient With Type 1 Long QT Syndrome Using Combined Epidural-Spinal Anesthesia for Cesarean Section: Perioperative Approach Based on Ion Channel Function	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2020 Feb;34(2):465-469.	Case Report
102	Yuko Ishikawa, Hirotoshi Kitagawa, Tadashi Sawada, et al	麻酔科	Deuterium oxide protects against myocardial injury induced by ischemia and reperfusion in rats	Scand Cardiovasc J. 2019 Dec;53(6):329-336.	Original Article
103	Tomonori Adachi, Momoka Sunohara, Masashi Ogawa, et al	ペインクリニック科	A Cross-Cultural Validation of the Multidimensional Pain Readiness to Change Questionnaire 2 for Japanese Individuals With Chronic Pain	Pain Pract. 2019 Jul;19(6):609-620.	Original Article

104	Koichiro Takayama 1, Seiko Ohno 2, Wei-Guang Ding	循環器内科	A de novo gain-of-function KCND3 mutation in early repolarization syndrome	Heart Rhythm. 2019 Nov;16(11):1698-1706.	Original Article
105	Megumi Fukuyama, Seiko Ohno, Junichi Ozawa, et al	循環器内科	High Prevalence of Late-Appearing T-Wave in Patients With Long QT Syndrome Type 8	Circ J. 2020 Mar 25;84(4):559-568.	Original Article
106	Takayoshi Tsutamoto, Hiroshi Sakai, Takashi Yamamoto, et al	循環器内科	Heart is the target organ of endogenous cardiac natriuretic peptides	International Heart Journal. 2020 Jan; 61(1): 77-82	Original Article
107	Masahide Fukuda, Hirohito Ishigaki, Mitsushige Sugimoto, et al	病理診断科	Histological analysis of fundic gland polyps secondary to PPI therapy	Histopathology. 2019 Oct;75(4):537-545.	Original Article
108	Masahide Fukuda, Toru Miyake, Akiko Matsubara, et al	病理診断科	Sclerosing mesenteritis mimicking IgG4-related disease	Internal Medicine. 2020 Feb; 59(4): 513-518	Original Article
109	Noriko Nishikura, Kodai Hino, Tomoko Kimura, et al	小児科	Postweaning Iron Deficiency in Male Rats Leads to Long-Term Hyperactivity and Decreased Reelin Gene Expression in the Nucleus Accumbens	J Nutr. 2020 Feb 1;150(2):212-221.	Original Article
110	Ayami Tano, Yosuke Kadota, Takao Morimune, et al	小児科	The juvenility-associated long noncoding RNA Gm14230 maintains cellular juvenescence	J Cell Sci. 2019 Apr 16;132(8):jcs227801.	Original Article
111	Tsukuru Amano, Tokuhiro Chano, Fumi Yoshino, et al	母子・女性診療科	Current Position of the Molecular Therapeutic Targets for Ovarian Clear Cell Carcinoma: A Literature Review	Healthcare (Basel). 2019 Jul 30;7(3):94.	Review

計 8 件

112	Fumi Yoshino, Tsukuru Amano, Yajuan Zou, et al	母子・女性診療科	Preferential Tumor Accumulation of Polyglycerol Functionalized Nanodiamond Conjugated with Cyanine Dye Leading to Near-Infrared Fluorescence In Vivo Tumor Imaging	Small. 2019 Nov;15(48):e1901930.	Original Article
113	Akimasa Takahashi, Nobuyuki Kita, Yuji Tanaka, et al	母子・女性診療科	Effects of high-dose dexamethasone in postpartum women with class 1 haemolysis, elevated liver enzymes and low platelets (HELLP) syndrome	Journal of Obstetrics and Gynaecology. 2019 Apr;39(3):335-339	Original Article
114	Fuminori Kimura, Akie Takebayashi, Mitsuaki Ishida, et al	母子・女性診療科	Review: Chronic endometritis and its effect on reproduction	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2019 May;45(5):951-960	Review
115	Yumi Matsumoto, Tsukuru Amano, Fuminori Kimura, et al	母子・女性診療科	Non-traumatic haematoma in a healthy young woman: a case report	Journal of Obstetrics and Gynaecology. 2019 Aug;39(6):872-873	Case report
116	Akiko Ishiko, Masahito Hitosugi, Marin Takaso, et al	母子・女性診療科	Chest compression of a pregnant woman by a seatbelt might affect fetal outcome, even in minor to moderate frontal vehicle collisions	Forensic Science International. 2019 Sep;302	Original Article
117	Yutaka Yoneoka, Mitsuya Ishikawa, Takashi Uehara, et al	母子・女性診療科	Treatment strategies for patients with advanced ovarian cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy: Interval debulking surgery or additional chemotherapy?	Journal of Gynecologic Oncology. 2019 Sep;30(5)	Original Article
118	Atsushi Murakami, Tsukuru Amano, Ayumi Seko-Nitta, et al	母子・女性診療科	Successful para-aortic lymph node dissection for endometrial cancer with horseshoe kidney: A case report and review of the literature	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2019 Oct;45(10):2128-2131	Case report

計 8 件

119	Tatsuro Horiuchi, Tsukuru Amano, Ayumi Seko-Nitta, et al	母子・女性診療科	MRI findings characteristic of ovarian primary adenocarcinoma	Journal of Obstetrics and Gynaecology. 2019 Nov	Original Article
120	Jun Kitazawa, Fuminori Kimura, Akiko Nakamura, et al	母子・女性診療科	Endometrial immunity for embryo implantation and pregnancy establishment	Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2020 Jan; 250(1): 49-60	Original Article
121	Fuminori Kimura, Akimasa Takahashi, Jun Kitazawa, et al	母子・女性診療科	Successful conservative treatment for massive uterine bleeding with non-septic disseminated intravascular coagulation after termination of early pregnancy in a woman with huge adenomyosis: Case report	BMC Women's Health. 2020 Mar; 20(1)	Original Article
122	Shigeki Koshida, Hisatomi Arima, Takako Fujii, et al	総合周産期母子医療センター	Impact of advanced maternal age on adverse infant outcomes: A Japanese population-based study	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2019 Nov;242:178-181.	Original Article
123	Shigeki Koshida, Tetsuo Ono, Shunichiro Tsuji, et al	総合周産期母子医療センター	Impact of the recommendation for embryo transfer limitation on multiple pregnancy: A population-based study in Japan	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2019 Jun;237:113-116.	Original Article
124	Shigeki Koshida, Tetsuo Ono, Shunichiro Tsuji, et al	総合周産期母子医療センター	Fetal movement frequency and the effect of associated perinatal factors: Multicenter study	Women Birth. 2019 Apr;32(2):127-130.	Original Article
125	Atsushi Nishida, Hirotsugu Imaeda, Osamu Inatomi, et al	消化器内科	The efficacy of fecal microbiota transplantation for patients with chronic pouchitis: A case series	Clinical Case Reports. 2019 Apr;7(4):782-788	Case report
126	Yusuke Koizumi, Takafumi Okuno, Hitoshi Minamiguchi, et al	消化器内科	Survival of a case of Bacillus cereus meningitis with brain abscess presenting as immune reconstitution syndrome after febrile neutropenia - A case report and literature review-	BMC Infectious Diseases. 2020 Jan; 20(1)	Review

127	Masaki Murata, Mitsushige Sugimoto, Hitomi Mizuno et al.	消化器内科	Clarithromycin Versus Metronidazole in First- Line Helicobacter Pylori Triple Eradication Therapy Based on Resistance to Antimicrobial Agents: Meta-Analysis	J Clin Med. 2020 Feb 17;9(2):543	Original Article
128	Kohji Iwai, Yasuhiko Hatanaka, Tamiro Kawaguchi, et al	リハビリテーション部	Evaluation of the safety, effectiveness, and health- related QOL impact of early rehabilitation in patients with nephrotic syndrome	Clinical and Experimental Nephrology. 2019 May;23(5):606-612	Original Article
129	Shigeki Bamba, Atsushi Nishida, Hirotsugu Imaeda, et al	栄養治療部	Successful treatment by fecal microbiota transplantation for Japanese patients with refractory Clostridium difficile infection: A prospective case series	Journal of Microbiology, Immunology and Infection. 2019 Aug;52(4):663-666	Original Article
130	Junko Okano, Atsuhiro Arakawa, Shuichi Ogino, et al	形成外科	Bilateral plantar fibromatosis complicated by Dupuytren's contracture	J Surg Case Rep. 2020 Feb 28;2020(2):rjz402.	Case report

計 4 件

総計 130 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	宮下 史寛 他	心臓血管外科	慢性解離性胸部大動脈瘤に対するオープンステントグラフト法を用いた全弓部大動脈置換術後のステントグラフトによる再解離	胸部外科72(8):595-598,2019.08	Original Article
2	清水 芳樹 他	脳神経内科	Cushing病とKlinefelter症候群の合併により亜急性に進行する両下肢近位筋筋力低下を呈した1例	臨床神経, 59:253-257, 2019.05	Original Article
3	野崎和彦 他	脳神経外科	脳動脈瘤治療の未来像	脳神経外科ジャーナル 29:101-108, 2020.02	Original Article
4	湯田厚司 他	耳鼻咽喉科	スギ花粉舌下免疫療法治療薬シダキュア®69例の初年度治療成績	アレルギー68(8),2019.09	Original Article
5	戸嶋一郎 他	耳鼻咽喉科	上気道の好酸球性炎症におけるアラキドン酸代謝物を介した2型自然リンパ球活性化機構	耳鼻免疫アレルギー 37(3):217-222,2019.09	Original Article
6	炭 昌樹 他	薬剤部	滋賀県の医療機関における抗菌薬適正使用支援体制の現状と活動内容	滋賀県病院薬剤師会誌 42 (2); 2-7, 2019.09	Original Article

計 6 件

7	國津 侑貴 他	薬剤部	「Triple Whammy」(レニン・アンジオテンシン系阻害薬, 利尿薬, 非ステロイド性抗炎症薬の3剤併用)による腎機能への慢性的な影響	YAKUGAKU ZASSHI 139 (11); 1457-1462, 2019.11	Original Article
8	國津 侑貴 他	薬剤部	病院薬剤師が主導した薬学生の実務実習におけるルーブリック評価トライアル	薬学教育 3; 163-170, 2019.09	Original Article
9	國津 侑貴 他	薬剤部	処方せんへの検査値記載による医療経済効果	医療薬学 45 (10); 568-575, 2019.10	Original Article
10	藪田 直希 他	薬剤部	抗がん薬誘発性口内炎に対するアズレンスルホン酸ナトリウム・トラネキサム酸含嗽液の効果に関する後ろ向き調査	医療薬学 46 (1); 14-21, 2020.01	Original Article
11	西野紗千 他	眼科	球後視神経付近に異物を認めた二重穿孔の1例	眼臨紀 12(8): 609-612, 2019.08	Original Article
12	室谷沙希 他	眼科	マムシ咬傷による眼症状が全身状態に伴って増悪・軽快した一例	眼臨紀 12(7):548-553, 2019.07	Original Article
13	西川 絢子 他	皮膚科	自己免疫性溶血性貧血を伴った好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例	臨床皮膚科 74巻、2号 Page147-150、2020.02	Original Article

計 7 件

14	國府 拓 他	皮膚科	抗RuvBL1/2抗体陽性全身性強皮症の1例	皮膚の科学 18巻、4号 Page226-230、2019.12	Original Article
15	岡田 一真 他	皮膚科	PHACE症候群の1例	皮膚科の臨床 61巻、10号 Page1551-1555、2019.10	Original Article
16	山口 剛	消化器外科	食道垂全摘回結腸再建後の再建臓器壊死に遊離空腸再建を行い経口摂取可能となった1例	手術 74(3):369-374, 2020.03	Original Article
17	松永隆志	消化器外科	後腹膜脂肪肉腫8例の検討	癌と化学療法 46(13), 2019.12	Original Article
18	小島 正継 他	消化器外科	術前に画像診断した、穿孔性虫垂憩室炎の1例	日本外科系連合学会誌 (0385-7883)44巻6号 Page1073-1078 (2019.12)	Original Article
19	小島 正継 他	消化器外科	術前に診断しえた、小腸平滑筋肉腫の1例	日本外科系連合学会誌 (0385-7883)44巻6号 Page1045-1050 (2019.12)	Original Article
20	油木純一 他	乳腺・一般外科	虫垂に酷似した大腸重複症に穿孔と穿通を合併した1例	日本腹部救急医学会雑誌 39(5):929-933, 2019.07	Original Article

計 7 件

21	岡本圭伍 他	呼吸器外科	c-T1肺癌に対する区域切除術の成績と工夫	胸部外科 7: 550-553, 2019.07	Original Article
22	井上明星 他	放射線科	肝海綿状血管腫の自然破裂に対して動脈塞栓術で止血を行い切除した1例	日本腹部救急医学会雑誌 39(4); 695-698, 2019.5	Original Article
23	井上明星 他	放射線科	Fibromatosis colliにおける画像所見の多様性	日本小児放射線学会雑誌 35(2); 99-106, 2019.11	Original Article
24	久保充彦 他	整形外科	軟骨下骨嚢腫病変を伴う脛骨・骨軟骨病変に対するナビゲーション下逆行性骨軟骨移植術の経験	JOSKAS 44; 342-343, 2019.04	Original Article
25	久保充彦 他	整形外科	人工膝関節全置換術において大腿骨・脛骨インプラントのcoronal alignmentは臨床成績に影響するか？	日本人工関節学会誌 49; 75-76, 2019.12	Original Article
26	前田 勉 他	整形外科	PS型TKAにおける大腿骨-脛骨間回旋アライメントの術前後の変化に影響を及ぼす因子の検索	日本人工関節学会誌 49; 83-84, 2019.12	Original Article
27	久保充彦 他	整形外科	Journey BCSの短期臨床成績とkinematics	中部整災誌 62; 649-650, 2019.07	Original Article

計 7 件

28	上林嘉孝 他	整形外科	膝前面悪性軟部腫瘍切除後、液体窒素処理組織を用いて膝伸展機構を再建した1例	中部整災誌 62; 961-962, 2019.09	Original Article
29	三村朋大 他	整形外科	鏡視下股関節唇修復術におけるポータル間のthread suspension techniqueの使用経験	Hip Joint 45; 856-858, 2019.09	Original Article
30	小嶋 亜希子 他	麻酔科	麻酔薬の心臓洞房結節自動能に対する制御機構	麻酔68巻12号、1280-1288、2019.12	Original Article
31	福井 聖 他	ペインクリニック科	「難治性慢性痛患者へのインターベンショナル治療」パルス高周波療法(pulsed radiofrequency treatment:PRF)	麻酔 2019.09, 68巻9号 Page966-972.	Original Article
32	西脇 侑子 他	ペインクリニック科	「的確なフットケアをめざして～糖尿病神経障害、末梢血流障害、足の変形と痛みの基礎知識;フットケア外来でのチームでの対処法～」神経障害性疼痛と侵害受容性疼痛の薬物治療	WOC Nursing ,2019.05, 7巻5号 Page22-28	Original Article
33	湯浅 真由美 他	ペインクリニック科	「接触刺激による皮膚潰瘍のため脊髄電気刺激療法を中止したが、刺激装置留置部位を変更し治療を再開できた1症例	ペインクリニック 2019.08, 40巻8号 Page1085-1088	Original Article

計 6 件

34	安達 友紀 他	ペインクリニック科	「痛み診療におけるメディカルスタッフの役割ー集学的診療の様々な形態ー」慢性痛チーム医療における心理職の役割	ペインクリニック.2019.08,40巻8号 Page1073-1081.	Original Article
35	福井 聖 他	ペインクリニック科	高周波熱凝固法、パルス高周波法「椎間板性腰痛に対する椎間板内パルス高周波治療	ペインクリニック.2019.04.40巻別冊春 Page S195-S204.	Original Article
36	Sluiter Menno E. 他	ペインクリニック科	高周波熱凝固法、パルス高周波法「パルス高周波法の臨床的有用性」	ペインクリニック, 2019.04, 40巻別冊春 Page S141-S152	Original Article
37	松本 富吉 他	ペインクリニック科	椎間板内治療、硬膜外癒着剥離術.4)松本法(経S1仙骨孔法)によるRaczカテーテル硬膜外腔神経癒着剥離術の有用性	ペインクリニック.vol.40.(2019.4)別冊春号. Page S131-S140.	Original Article
38	岩下成人 他	ペインクリニック科	慢性疼痛 徴候と診断	日本臨牀,2019.12, 第77巻第12号	Original Article
39	芦原 貴司 他	循環器内科	心房細動のリアルタイム映像化に基づくカテーテル治療の効率化に向けた心内心電図解析改善の取り組み	医療情報学 2019.10;39(Suppl.):430-431	Original Article

計 6 件

総計 39件

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 「倫理審査委員会規程」 「遺伝子解析研究取扱規程」 「滋賀医科大学 人を対象とする医学系研究に関する手順書」 「国立大学法人滋賀医科大学認定臨床研究審査委員会規程」 「特定臨床研究における疾病等の発生および不具合に関する対応・報告のための標準業務手順書」 「臨床研究に関する研究責任医師並びに分担医師の責務」 「臨床研究法に基づく臨床研究に関する標準業務手順書」 「臨床研究に関する個人情報の取扱いに関する標準業務手順書」 「多施設共同研究における研究代表医師が委託する臨床研究審査委員会での審査に関する標準業務手順書」 「国立大学法人滋賀医科大学特定認定再生医療等委員会規程」	
③ 倫理審査委員会の開催状況 2019年4月23日、5月9日、6月13日、7月11日、8月5日、 9月12日、10月10日、11月14日、12月12日、 2020年1月9日、2月13日、3月12日	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 滋賀医科大学利益相反マネジメント規程において、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメント委員会の設置、アドバイザーの設置及び職員等の責務等を定めている。また組織的利益相反マネジメントについても委員会を設置し、役員、管理職の利益相反、組織的意思決定に関する利益相反のマネジメントも行っている。	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回 (組織的利益相反) 随時開催 (全件審査) (医学研究に係る利益相反)
---------------------------------------	--

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回 (倫理指針・ゲノム指針：3回 再生医療：2回)
・研修の主な内容 ・「人を対象とする医学系研究に関する講習会」 (ライブ、DVD 上映) ・「人を対象とする医学系研究に関する講習会」 (SUMS e-learning) ・ICR-web 「臨床研究入門「臨床研究の基礎知識講座」(e-learning) ・APRIN 「01_責任ある研究行為：基盤編」(e-learning) ・「再生医療等提供に係る教育・研修会」 (ライブ、DVD 上映) 受講者数 (延べ) 829 人	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・ 卒後 3 年から 7 年目の医師を対象とし、実践的で高い臨床能力を持ち、倫理性・科学性に富む専門医の育成を目標としている。
- ・ プログラムコースは各診療科により若干異なるが、卒後 3 年目を滋賀医科大学医学部附属病院で研修した後、市中関連病院に 1 ～ 2 年間出向の後、滋賀医科大学に戻る、あるいは更に別の関連病院に 1 ～ 2 年勤務後に戻るというコース編成になっている。
- ・ 大学院社会人入学コースを用意している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	73 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
中川 義久	循環器内科	教授、診療科長	34 年	
中野 恭幸	呼吸器内科	教授、診療科長	22 年	アレルギー科を含む
安藤 朗	消化器内科	教授、診療科長	29 年	
木藤 克之	血液内科	病院教授、診療科長	25 年	感染症内科を含む
前川 聡	糖尿病内分泌内科	教授、診療科長	33 年	代謝内科を含む
荒木 信一	腎臓内科	准教授、診療科長	25 年	
漆谷 真	脳神経内科	教授、診療科長	25 年	
丸尾 良浩	小児科	教授、診療科長	29 年	アレルギー科を含む
尾関 祐二	精神科	教授、診療科長	16 年	
藤本 徳毅	皮膚科	教授、診療科長	16 年	
谷 眞至	消化器外科	教授、診療科長	31 年	
山口 剛	乳腺・一般外科	講師、診療科長	23 年	
鈴木 友彰	心臓血管外科	教授、診療科長	19 年	
花岡 淳	呼吸器外科	病院教授、診療科長	24 年	
今井 晋二	整形外科	教授、診療科長	26 年	リウマチ科を含む
野崎 和彦	脳神経外科	教授、診療科長	30 年	
清水 猛史	耳鼻咽喉科	教授、診療科長	33 年	アレルギー科を含む
村上 節	産婦人科	教授、診療科長	31 年	
河内 明宏	泌尿器科	教授、診療科長	31 年	
大路 正人	眼科	教授、診療科長	33 年	
北川 裕利	麻酔科	教授、診療科長	28 年	
渡邊 嘉之	放射線科	教授、診療科長	23 年	
田畑 貴久	救急科	講師、診療科長	22 年	
山本 学	歯科口腔外科	教授、診療科長	32 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【薬剤師】

・研修の主な内容

- ①薬剤師レジデントを対象に、がん薬物療法についての高度な知識・技術を習得することを目的に研修を実施した。
- ②薬剤師を対象に、がん薬物療法についての高度な知識・技術を習得することを目的に「がん薬物療法認定薬剤師研修」を行った。

・研修の期間・実施回数

- ①2019年4月1日～2020年3月27日・15回
- ②約2か月間（2020年1月8日～3月12日）・13回

・研修の参加人数

- ①4名
- ②1名

【管理栄養士】

・研修の主な内容

- ①静脈栄養・経腸栄養の実際-リスクマネジメントを中心に-
- ②「PICCカテーテルの挿入と管理」「輸液の種類と適正使用」

・研修の期間・実施回数

- ①2019/11/21
- ②2020/3/19

・研修の参加人数

- ①64名
- ②51名

【看護師】

・研修の主な内容

薬剤（麻薬・抗がん剤・インスリン・血液製剤等）、輸液管理、12誘導心電図・心電図モニター管理、人工呼吸器管理、急変時対応等について

・研修の期間・実施回数

2019年度・22回実施

・研修の参加人数

68名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【放射線技師】

・研修の主な内容

- ①画質管理・画像管理・線量管理を統合した放射線画像管理システム
- ②高精細CTと被ばく低減システム搭載最新CT
- ③椎間板ヘルニア治療の最前線
- ④線量管理システムDose manager について

- ⑤最新PACSについて
- ⑥医療安全（部内インシデントのレビュー）
- ⑦MRI テクニカルカンファレンス
- ⑧デュアルエナジーCT検査
- ⑨FFR-CT 導入説明会
- ⑩呼吸器内科治験プロトコル説明会
- ⑪核医学関連の技術・疾患に関する研修

・研修の期間・実施回数

- ①2019.5.21・1回
- ②2020.10.15・1回
- ③2020.1.7・1回
- ④2020.1.21・1回
- ⑤2020.2.4・1回
- ⑥通年 4回
- ⑦通年・30~40回
- ⑧2019..10.15 1回
- ⑨2019.10.29 1回
- ⑩2019.10.29 1回
- ⑪通年 20~30 回

・研修の参加人数

- ①27名
- ②29名
- ③26名
- ④28名
- ⑤26名
- ⑥25名以上
- ⑦10名程度
- ⑧6名
- ⑨3名
- ⑩5名
- ⑪5名程度

【薬剤師】

・研修の主な内容

薬剤師を対象に、インシデントレポートの記載、災害マニュアル、疑義照会の分析、プレアボイド報告事例、輸液や栄養管理についての説明を行った。

・研修の期間・実施回数

約12か月間（2019年4月1日～2020年3月23日）・7回

・研修の参加人数

延べ161名

【管理栄養士】

・研修の主な内容

- ①衛生管理
- ②栄養評価、栄養投与の決定、栄養療法の選択、経腸栄養、静脈栄養

・研修の期間・実施回数

- ①2019/10/30、11/5 各40分
- ②2019/4/4、4/26、5/24、5/31、6/7 各30～40

・研修の参加人数

- ①参加人数46名
- ②参加人数10～16名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

『医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院』ではない為、該当無し。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田中 俊宏
管理担当者氏名	事務部長 (病院担当) 國友 陵一

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	平成22年7月より電子カルテ化されており、入外共に永久保存されている。 それ以前の紙の診療録等については、外来・入院別に1患者1ファイル方式によって永久一元番号で分類していた。 紙の診療録については、最終受診日が平成20年12月31日までの入院・外来診療録は10年間の現物保管、10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄、但し、入院歴のない外来診療録は10年間の現物保管後、そのまま廃棄としていた。最終受診日が平成21年1月1日以降の入院・外来診療録は10年間の現物保管、10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄する。 画像情報は平成20年以降の画像データを全て電子データとしてPACSにて保管している。 マンモグラフィ画像は昨年度までの10年間程度の画像はフィルムにて保管している。
		各診療科	
		薬剤部	
		医務課	
		医務課	
		医務課	
		放射線部	
		医務課	
		医務課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院情報システムのそれぞれの部門システムにて管理されている。
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	

一 規 則 第 一 條 に 掲 げ る 事 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病歴部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術部、放射線部、光学医療診療部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	クオリティマネジメント課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	クオリティマネジメント課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	滋賀医科大学長 上本 伸二		
閲覧担当者氏名	総務企画課文書法規係長 石田 晋也		
閲覧の求めに応じる場所	情報公開室（管理棟2階 総務企画課内）		
閲覧の手続の概要			
開示請求者から「法人文書開示請求書」を受領後、「情報公開・個人情報保護審査委員会」の審議を経て、学長が開示・不開示の決定をする。			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	6	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1) 医療安全管理に関する基本的な考え方 2) 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 3) 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 4) 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5) 医療事故等重大なインシデント発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本指針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の企画立案に関すること。 (2) インシデント等の状況の分析に関すること。 (3) 全死亡例に関すること。 (4) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の適否結果及び従事者の遵守状況に関すること。 (5) 本院で実施する臨床研究（以下「臨床研究」という。）の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合への対応に関すること。 (6) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。 (7) 医療安全管理に係る教育及び研修に関すること。 (8) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。 (9) 医薬品安全使用のための業務手順書の作成又は変更に関すること。 (10) 医療機器安全使用に関すること。 (11) 医療放射線安全使用に関すること。 (12) 院内で行われる、実習、研修など教育活動に伴う患者安全管理に関すること。 (13) 医療安全マニュアルに関すること。 (14) インシデントの公的機関への報告及び公表等に関すること。 (15) 発生したインシデントの患者及び家族等への対応に関すること。 (16) その他インシデント、医事紛争及び訴訟に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 17 回
研修の内容（すべて）： ① 部署取り組み発表会 ② 令和元年度第1回医薬品安全使用研修会 1) 添付文書の様式変更について ～これまでの経緯と変更点を中心に～ 2) 医療安全に対する薬剤部の取り組み ～インシデントレベル0を中心に～ ③ Speak up ! ④ 高難度新規医療技術等・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供プロセス ⑤ 確認不足と薬剤関連 インシデントレポート ～インスリンに関係した報告を中心に～ ⑥ 気管切開術後早期の管理 ⑦ 令和元年度第2回医薬品安全使用研修会 1) 鎮静薬の薬理・薬物動態 2) 鎮静薬投与中の患者モニタリングについて	

3) 鎮静薬の上手な使い方 ⑧患者監視モニターの安全管理について ⑨RRSやっています ⑩2019年度第1回腫瘍センター講演会 「ゼツタイ避けたい！化学療法関連合併症について」 1) 化学療法によるB型肝炎ウイルス再活性化の予防 ～当院での現況について～ 2) がん薬物療法に際して知っておきたい基礎知識 ～B型肝炎ウイルス再活性化～ ⑪クリニカルパス大会 招聘教育講演 ⑫気管切開術後早期の管理 ⑬「静脈栄養・経腸栄養の実際 ―リスクマネジメントを中心に―」 ⑭「NPPVのマスクフィッティング」「呼吸関連用具使用中の皮膚障害予防とケア」 ⑮医療用ポンプの正しい使い方 ⑯転倒・転落対策チーム報告 ⑰令和元年度第3回医薬品安全使用研修会 「重要性を増すがんサイバーシップ・ケアと腫瘍循環器学 ～医療安全とEBMを核としたチーム医療および地域医療連携～」	④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。 2) 毎月の重要なインシデント及びその対策について各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。 3) 院内ラウンドによるチェックを行っている。 4) リスクマネージャー会議を開催し、医療安全管理部での検討事項、具体的な改善計画等の情報を伝達している。
--	---

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応の基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1) 感染予防対策の企画立案に関すること。 2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。 3) 感染予防対策マニュアルに関すること。 4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。 5) 感染予防対策に係る調査に関すること。 6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。 7) その他感染予防対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年21回
・ 研修の内容（すべて）： ① 感染症セミナー1 感染症の診断と治療 ② 看護実践能力強化研修1 看護師のための抗菌薬の話 ③ 感染症セミナー2 検体採取、提出、保存 ④ 標準予防策と経路別予防策 ⑤ 感染症セミナー3 ・ 抗MRSA薬の使い方 ・ 抗MRSA薬のTDM ⑥ 正しく手を洗えていますか？（手洗いチェック） ⑦ 看護実践能力強化研修3 手術部位感染防止 ⑧ HIVについて ⑨ 感染症セミナー4 ・ ペニシリン系抗菌薬の使い方 ・ セフェム系抗菌薬の使い方 ⑩ 看護実践能力強化研修4 カテーテル関連尿路感染防止（基礎編） ⑪ 専門医共通講習「感染対策」 ⑫ 感染症セミナー5 ・ キノロン、アミノグリコシド系抗菌薬の使い方 ・ アミノグリコシド系抗菌薬のTDM ⑬ 看護実践能力強化研修5 カテーテル関連尿路感染防止（実践編） ⑭ 感染症セミナー6 2018年度の結核症例について ⑮ カテーテル関連血流感染防止（基礎編） ⑯ 2019年度第1回腫瘍センター講演会「ゼットイ避けたい！化学療法関連合併症について」 1) 化学療法によるB型肝炎ウイルス再活性化の予防 ～当院での現況について～ 2) がん薬物療法に際して知っておきたい基礎知識 ～B型肝炎ウイルス再活性化～ ⑰ 消毒について ⑱ カテーテル関連血流感染防止（実践編） ⑲ 人工呼吸器関連肺炎防止 ⑳ インフルエンザ ㉑ ノロウイルス対策 吐物処理の演習	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。
 - 2) 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。
 - 3) 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
・研修の主な内容： 2019.4.3 研修医を対象に、薬剤部の役割と医薬品のオーダー方法について講義を行った。（36名参加） 2019.5.15 新人看護師を対象に、電子医薬品集、抗がん剤、麻薬、糖尿病薬、注射薬等について講義を行った。（65名参加） 2019.5.22 院内医療従事者を対象に、添付文書記載要領の改訂について講義を行った。（78名参加） 2019.6.24 高難度新規医療技術等・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供プロセスについて講義を行った。（54名参加） 2019.7.18 10病棟カンファレンスで、精神科で使用頻度の高い薬の分類と副作用について講義を行った。（7名参加） 2019.9.11 鎮静薬の薬理・薬物動態、鎮静薬投与中の患者モニタリング、鎮静薬の上手な使い方について講演を行った。（80名参加） 2020.1.29 重要性を増すがんサバイバーシップ・ケアと腫瘍循環器学について講義を行った。（34名参加）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	・手順書の作成 （ 有・無 ） ・手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、病棟・各部門における医薬品の管理、外来患者への医薬品の使用、入院患者への医薬品使用、麻薬の取扱い、治験薬の取扱い、特定生物由来製品の取扱い、要管理薬（向精神薬・筋弛緩薬・覚醒剤等）の取扱い、未承認・適応外・禁忌等に該当する医薬品の取扱い、院内製剤、医薬品情報の収集・管理・提供、外来化学療法部門、手術・麻酔部門、集中治療室、輸血・血液管理部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、重大な有害事象の予防・対応、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品 2019年8月～9月に、院内各部署の担当医長・師長・薬剤師の3者で、手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った。 2019年11月に手順書の改訂を行った。
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○MELAS症候群の脳卒中発作の抑制を目的としたタウリン散98%の投与 ○ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ点滴静注を用いた寛解導入療法 ○誤嚥の危険性のある小児に対するイオパミロン370を用いた上部消化管造影検査 ○小腸癌の術後補助化学療法に対するゼローダの投与 ○視神経脊髄炎における視神経の自己抗体に対するプログラフの投与 ○異所性副甲状腺腫瘍の染色を目的としたメチレンブルーの使用

- カテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD等のデバイス手術施行時の鎮静を目的としたプロポフォールの投与
- 経食道心エコー施行時の鎮静を目的としたミダゾラムの投与
- 本態性血小板血症合併妊婦（双胎妊娠）に対するスミフェロンDS300万単位の使用
- 膿胸に対するウロキナーゼの投与
- 髄芽腫に対するテモゾロミドの投与
- 気胸及び胸膜炎に対するミノサイクリンおよびキシロカインの投与
- 12歳未満の難治性てんかんでのペランパネルの使用（他剤との併用）
- 小児の機能性ディスペプシアに対するアコチアミドの投与
- 局所麻酔下でのIVR処置時の鎮静を目的としたデクスメトミジンの投与
- 心臓カテーテル室において医師モニタリング下の低カリウム血症患者による致死性不整脈（心房細動、心室頻拍）の抑制を目的としたKCL注キットの投与
- 先天性甲状腺機能低下症の病型診断のうち、有機化障害の診断に対する過塩素酸カリウムの使用
- 進行性多巣性白質脳症に対するアコチアミド、メフロキン、ミルタザピンの併用療法
- 中枢神経原発悪性リンパ腫（再発）に対するテモゾロミドの投与
- 下咽頭梨状陥凹瘻治療に対する20%トリクロロ酢酸の使用
- 視神経脊髄炎に対するミコフェノール酸モフェチルの使用
- サイトメガロウイルス網膜炎に対するガンシクロビルの局所療法（硝子体注入）
- 川崎病に対するシクロスポリンの投与
- てんかん重積状態に対するレベチラセタム、プロポフォール、チオペンタール、チアミラール、ラコサミド、ペランパネルの投与
- 産科危機的出血、妊娠関連疾患（常位胎盤早期剥離、HELLP症候群、急性妊娠性脂肪肝、産科播種性血管内凝固症候群など）による著明な凝固因子低下に対するフィブリノゲンの投与
- 流産処置、体外受精における採卵処置、子宮内膜ポリープや子宮体癌に対する子宮鏡検査に対するプロポフォールを用いた静脈麻酔
- 小児への麻酔前投薬としてミダゾラムの内服使用
- COVID-19に感染した重症患者に対するシクレソニドの投与
- COVID-19に感染した重症患者に対するカレトラ配合錠の投与

・その他の改善のための方策の主な内容：

1) 新規の取り組み

- 画像監査システムを導入し、調剤間違いを防止している。（2019/9）

2) 継続的な取り組み

- 医薬品安全管理副責任者4名（病棟、外来診療科、薬剤部、ハイケアユニット担当）を任命し、院内の医薬品の使用状況の把握や安全性情報の伝達等を行っている。
- 緊急性を要する安全性情報や添付文書改訂情報は、随時、薬剤部から病院全職員にメール送信している。また、病棟薬剤師を通じ、該当医薬品を使用する医師や看護師等に直接情報を伝達し、周知を行っている。特に全職員に周知が必要な情報は、月1回、紙ベースで回覧し、確認後、押印してもらい回収している。
- 医薬品情報に特化した院内医療従事者専用のWEBページを作成し、医薬品の採用削除、添付文書改訂、安全性情報及び回収情報等を閲覧できるようにしている。検索機能もあるため、過去情報の検索も可能である。
- 医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信している。医薬品添付文書情報だけでなく、添付文書改訂情報や薬剤部で作成したハイリスク薬や術前中止薬一覧等も掲載され、医師がオーダー時に参照可能である。
- 厚労省に報告した副作用情報、未承認・適応外薬及び併用禁忌薬の処方状況等は、薬事委員会に報告し、安全使用のための改善策や院内への周知広報について協議を行っている。
- 患者支援センターに薬剤師が常駐し、処方薬や市販薬・サプリメント等の使用状況を把握し、術前中止薬の有無について確認を行っている。
- 使用が承認された未承認等の医薬品の情報は、該当する病棟の担当薬剤師に連絡し、使用状況や有害作用の発生の有無を定期的に確認し、必要なら是正を指導する。また、リスク分類を行い、ハイリスクに分類されたものについては、項目を決め、モニタリングの強化を行っている。モニタリングの内容はカルテに記載している。
- 併用禁忌薬、妊婦禁忌薬、アレルギー禁忌薬、及び病態禁忌薬は、電子カルテシステム及び部門シ

システムで処方状況を把握し、薬剤部内リスクマネジメント会議において、使用状況や不適切な使用の有無を確認し、必要なら病棟薬剤師を通じて是正を指導する。

○疑義照会記録はデータベース化し、特に注意すべきものについて、薬剤部内で情報共有している。情報共有したもの以外のデータについても、必要時には検索・照会が可能である。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
研修の主な内容： 医療用ポンプの正しい使い方 患者監視モニタの正しい使い方 e-Learningによる8機種の研修会を実施	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (☒・無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： 年1回のメーカーによる保守点検 シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、麻酔器、人工心肺装置、PCPS、IABP、保育器、透析装置（CHDF等含む） 臨床工学部による月1回または3か月に1回の定期点検の実施 除細動器、人工呼吸器、麻酔器、PCPS、IABP、透析装置（CHDF等含む）、電気メス	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒・無) - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし - その他の改善のための方策の主な内容： PMDAからの情報収集及びメーカーによる情報収集を行っている。 臨床工学部より医療機器の安全使用のためのニュースレターを定期的に出している。 医療機器安全管理情報のホームページを作成し、ニュースレターやお知らせ文書などを掲載している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無								
・責任者の資格（☒ 医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理責任者を副病院長（医療安全担当）とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括している。									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ （ 2名 ） ・無								
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部医薬品情報管理室で情報の収集・整理を行っている。また、iPicを用いて情報発信するとともに、毎月「クスリのリスクコミュニケーション」を発行し、回覧することにより周知している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 適応外・禁忌医薬品・未承認医薬品等の使用について審査手順書を作成している。 平成29年4月より高難度医療・未承認医薬品等管理室が窓口となり、「未承認・未認証・未届・適応外・禁忌・禁止に該当するレジメン使用申請書」、「国内未承認・適応外・禁忌に該当する医薬品の臨床使用申請書」を受け、医薬品安全管理責任者が委員長でもある治療担当部門の薬事委員会での正審査を行っている。 ・担当者の指名の有無（☒ 有・無） ・担当者の所属・職種： <table border="0"> <tr> <td>（所属：薬剤部，職種 薬剤師）</td> <td>（所属：，職種）</td> </tr> <tr> <td>（所属：，職種）</td> <td>（所属：，職種）</td> </tr> <tr> <td>（所属：，職種）</td> <td>（所属：，職種）</td> </tr> <tr> <td>（所属：，職種）</td> <td>（所属：，職種）</td> </tr> </table>		（所属：薬剤部，職種 薬剤師）	（所属：，職種）	（所属：，職種）	（所属：，職種）	（所属：，職種）	（所属：，職種）	（所属：，職種）	（所属：，職種）
（所属：薬剤部，職種 薬剤師）	（所属：，職種）								
（所属：，職種）	（所属：，職種）								
（所属：，職種）	（所属：，職種）								
（所属：，職種）	（所属：，職種）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有・無								
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☒ 有・無） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：同意書の有無、ICについて内容の確認を行った。									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 同意書の有無と患者への説明内容、治療に関する説明、日々のカルテ記載について、各診療科より無作為に抽出し、医師、看護師、薬剤師による診療録等の記載内容について監査を行った。また、各種管理料に係る診療録の記載についても監査を行い、結果を病歴部連絡協議会にて報告した。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有・無
・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（9）名 うち医師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名	

うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（１）名

・活動の主な内容：

- (1) インシデント防止の推進に関すること。
- (2) インシデント発生時の調査及び分析に関すること。
- (3) インシデント等に関する事例、対策等の情報収集に関すること。
- (4) 全死亡例に関する、集計、分析、報告等に関すること。
- (5) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。
- (6) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
- (7) 医療安全管理に関する教育、研修等の企画及び実施に関すること。
- (8) 医療安全に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関すること。
- (9) 医療安全マニュアルの作成に関すること。
- (10) 医療安全に関する広報・啓発活動に関すること。
- (11) リスクマネジャー会議・事例検討会等に関すること。
- (12) 本院で実施する臨床研究の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合へ情報収集に関すること。
- (13) その他医療安全の推進に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13 件）、及び許可件数（12 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
各診療科より提出される申請内容を確認し、各評価委員会に適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度・未承認管理室で最終確認を行い、適否結果を各診療科等に通知する。
各評価委員会は高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況のモニタリングを行う。
高難度新規医療技術の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（47 件）、及び許可件数（45 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
各診療科より提出される申請内容を確認し、各評価委員会に適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度・未承認管理室で最終確認を行い、適否結果を各診療科等に通知する。
各評価委員会は未承認医薬品等が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況のモニタリングを行う。
未承認医薬品等の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認した

ときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)
⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況 ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 258 件 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 174 件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療安全管理委員会で周術期死亡、術後在院死亡の事例について報告し、必要に応じて事例検討会、事例調査検討委員会を開催し原因、対策等について検討している。また、関係部署での M&M カンファレンスの実施指導を行っている。また、影響レベル 3b 以上の事象や合併症報告などに関しても医療安全管理委員会で報告し、原因対策等について検討している。
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 ・ 他の特定機能病院等への立入り (☒ 有 (病院名： 長崎大学) ・ 無) ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (☒ 有 (病院名： 札幌医科大学) ・ 無) ・ 技術的助言の実施状況 平成 31 年 3 月に開催した複数診療科による合同ワークショップについて、継続した開催により診療科間の連携を拡大していくよう助言があった。令和 2 年 3 月に複数診療科（泌尿器科、母女性診療科、呼吸器外科、消化器外科）による第 2 回合同ワークショップを開催し、医療安全管理部からのインシデント情報（2019 年度）の共有及びロボット支援手術をテーマとしたグループディスカッションを行った。なお、令和 2 年 12 月に第 3 回合同ワークショップを開催予定である。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 ・ 体制の確保状況 患者支援センター内に患者相談窓口を設置し、医療安全及び医療上のインシデントに関する相談については、医療安全管理者と連携して対応している。
⑫ 職員研修の実施状況 ・ 研修の実施状況 2019 年 5 月 9 日、部署取り組み発表会 2019 年 5 月 22 日、令和元年度第 1 回医薬品安全使用研修会 1) 添付文書の様式変更について ～これまでの経緯と変更点を中心に～ 2) 医療安全に対する薬剤部の取り組み ～インシデントレベル 0 をを中心に～ 2019 年 5 月 30 日・31 日、Speak up ! 2019 年 6 月 24 日、高難度新規医療技術等・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供プロセス 2019 年 7 月 10 日・11 日、確認不足と薬剤関連 インシデントレポート ～インスリンに関係した報告を中心に～ 2019 年 8 月 29 日、気管切開術後早期の管理 2019 年 9 月 11 日、令和元年度第 2 回医薬品安全使用研修会 1) 鎮静薬の薬理・薬物動態 2) 鎮静薬投与中の患者モニタリングについて 3) 鎮静薬の上手な使い方 2019 年 9 月 19 日、患者監視モニターの安全管理について 2019 年 9 月 26 日、RRS やってます 2019 年 10 月 9 日、2019 年度第 1 回腫瘍センター講演会 「ゼツタイ避けたい！化学療法関連合併症に

	ついて」①化学療法によるB型肝炎ウイルス再活性化の予防 ～当院での現況について～ ②がん薬物療法に際して知っておきたい基礎知識 ～B型肝炎ウイルス再活性化～ 2019年10月31日、クリニカルパス大会 招聘教育講演 2019年11月19日、気管切開術後早期の管理 2019年11月21日、「静脈栄養・経腸栄養の実際—リスクマネジメント を中心に—」 2019年12月 4日、「NPPVのマスクフィッティング」「呼吸関連用具使用中の皮膚障害予防とケア」 2019年12月11日、医療用ポンプの正しい使い方 2020年 1月28日、転倒・転落対策チーム報告 2020年 1月29日、令和元年度第3回医薬品安全使用研修会「重要性を増すがんサイバーシップ・ケアと腫瘍循環器学 ～医療安全とEBMを核としたチーム医療および地域医療連携」
--	---

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 2019 年度特定機能病院管理者研修を受講 管理者・・・第3回 (2020. 1. 7) 医療安全管理責任者・・・第2回 (2019. 12. 16) 医薬品安全管理責任者・・・第1回 (2019. 10. 11) 医療機器安全管理責任者・・・第2回 (2019. 12. 17-18)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容 （滋賀医科大学医学部附属病院長選考基準より）
 1. 優れた学識、豊かな人間性と高い倫理観を持つとともに、大学における教育・研究・診療活動を適切にかつ効率的に運営することができる者。
※医学系教授の経験を有する者が望ましい。
 2. 医療安全管理業務の経験と、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者。
※医療安全管理業務の経験とは下記のいずれかの業務に従事した経験を有するものであること（厚生労働省通知）
 - ①医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務
 - ②医療安全管理委員会の構成員としての業務
 - ③医療安全管理部門における業務
 - ④その他上記に準じる業務
 3. 附属病院または附属病院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者
※病院長または副病院長の経験を有することが望ましい。
 4. 「滋賀医科大学医学部附属病院の理念及び基本方針」及び「滋賀医科大学中期目標（附属病院に関する目標）等」に基づいた病院運営を遂行できる者。
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
本学ホームページにて

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 本学ホームページにて				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
小笠原 一 誠	理事（教育・研究 等担当）	○	滋賀医科大学医学部附属病院長選考会 議規程第3条第1項第1号に基づき学 長が指名する理事	有
永 田 啓	理事（企画・評価 ・ 渉外等担当）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会 議規程第3条第1項第1号に基づき学 長が指名する理事	有
大 路 正 人	眼科学講座 教 授		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会 議規程第3条第1項第2号に基づき学 長が指名する教授	有
寺 田 智 祐	薬剤部 教授		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会 議規程第3条第1項第2号に基づき学 長が指名する教授	有
村 上 節	副病院長（教育・ 研修）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会 議規程第3条第1項第3号に基づき学 長が指名する副病院長	有
西 村 路 子	副病院長（看護）		滋賀医科大学医学部附属病院長選考会 議規程第3条第1項第3号に基づき学 長が指名する副病院長	有
森 田 陸 司	医療法人医仁会 武田総合病院 名誉院長		大学病院及び民間病院の病院長として、 医学・医療安全について豊富な経験等を 有している。	無
石 川 浩 三	一般社団法人滋 賀県病院協会会 長大津赤十字病 院長		滋賀県病院協会会長・大津赤十字病院の 病院長として、医学・医療安全について 豊富な経験等を有している。	無
平 井 紀 夫	元オムロン株式 会社・副社長		滋賀医科大学経営協議会委員、学長選考 会議委員として、本学の重要事項の決定 に参画いただいております、豊富な経験や高 い見識を有している。	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
・合議体の主要な審議内容 (1) 病院の将来計画に関する事項 (2) 病院の運営に係る中期目標・中期計画・年度計画に関する事項 (3) 診療体制のあり方に関する事項 (4) 病院の経営方針に関する事項 (5) 病院の予算及び決算に関する事項 (6) 病院の評価結果に基づく改善等に関する事項 (7) その他病院の管理運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 学内ホームページに毎月の議事録を掲載し、メールで職員に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田中 俊宏	○	医師	病院長
野崎 和彦		医師	副病院長
村上 節		医師	副病院長
北川 裕利		医師	副病院長
今井 晋二		医師	副病院長
西村 路子		看護師	副病院長
國友 陵一		事務	副病院長
大路 正人		医師	病院長補佐
漆谷 真		医師	病院長補佐
中野 恭幸		医師	教授
前川 聡		医師	教授
谷 眞至		医師	教授
渡邊 嘉之		医師	教授
芦原 貴司		医師	部長
川崎 拓		医師	センター長
寺田 智祐		薬剤師	教授
天野 創		医師	講師（学内）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・~~無~~）
 - ・ 公表の方法
 - ・ 規程の主な内容
 - 病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限
 - 人事権：国立大学法人滋賀医科大学文書決裁規程
 - 予算執行権限：国立大学法人滋賀医科大学予算規則
 - その他
 - 医療安全等の確保のための診療等停止権限
 - ：滋賀医科大学医学部附属病院における医療安全等の確保に関する内規
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 病院に病院長を補佐し、職務を分担するため、次に掲げる副病院長を置く。
 - (1)副病院長（医療安全等担当）
 - 病院における安全管理及び感染対策等の危機管理に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (2)副病院長（企画・評価担当）
 - 病院における企画及び評価に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (3)副病院長（労務・診療担当）
 - 病院における労務及び診療に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (4)副病院長（教育・業務担当）
 - 病院における教育及び業務に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (5)副病院長（看護担当）
 - 病院における看護に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (6)副病院長（経営担当）
 - 病院における経営に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - 病院長は、特定の業務について処理させるため、次に掲げる病院長補佐を指名することができる。
 - (1)病院長補佐（臨床研究開発担当）
 - 臨床研究の支援に関する職務を担当する。
 - (2)病院長補佐（広報・地域連携担当）
 - 病院の広報及び地域医療機関との連携に関する職務を担当する。
 - 事務部長は、病院長を補佐し、病院における経営、医療サービス、施設管理、臨床研究その他病院の管理運営に関する事務を掌理する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 令和2年2月17日 第2回病院経営次世代リーダー養成塾
 - ＜参加者＞
 - ・ 副病院長（医療安全担当） 田中 俊宏
 - ・ 副看護部長 加賀 有未

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況				☒ ・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療に係る安全管理についての業務方法書及び規則等の整備状況に関すること。 (2) 関係法令，業務方法書，規則等に基づく業務の実施状況に関すること。 (3) 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の行うべき業務の状況に関すること。 (4) 医療安全管理部の体制及び業務の状況に関すること。 (5) 医療安全管理委員会の業務の状況に関すること。 (6) その他本院における医療安全管理体制に関すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・ 公表の方法： 病院ホームページに掲載している。					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ ☒ 無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ ☒ 無	1
平野 哲郎	立命館大学		法律学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	有・ ☒ 無	1
西川 甫	滋賀県スポーツ協会		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる	有・ ☒ 無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事（研究・企画・国際担当）の立場で意見を述べる	☒ ・無	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）の立場で意見を述べる	☒ ・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

管理者の業務が法令に適合することを確保し、病院の健全な運営に資するために、専門部署として学長の下に「監査室」を設置しており、病院の運営状況を公正かつ客観的に調査及び検証するなど、内部監査を企画立案し実施している。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ 無 ）

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 法人に重要事項を議決する機関として、学長及び理事をもって組織される役員会を設置しており、病院規程に定める組織（診療科、中央診療部等）の設置、廃止等ならびに重要な人事（部局長等の選考、看護部長の選考）については、当該合議体の議決事項として定めている。 また、管理者から毎月開催している病院管理運営会議の審議内容を報告させ、病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 2 2 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）（ 年 2 2 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 全学メールにて周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益社団法人日本医療機能評価機構 認定期間：2019年2月16日～2024年2月15日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 附属病院ホームページにて、Q I（クオリティ・インディケーター）や本院の特色のある医療等を公開している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 緩和ケア…腫瘍内科、小児科、精神科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、呼吸器外科、 女性診療科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科 感染対策…呼吸器内科、呼吸器外科、小児科、歯科口腔外科、消化器外科、血液内科、 救急・集中治療部 栄養サポート…消化器内科、乳腺・一般外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科	